

山梨県南アルプス市

平成17年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書
個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006. 3

南アルプス市教育委員会



魚骨（タイ 第2椎骨）

百々・上八田遺跡



百々・上八田遺跡 中層：配石造構



百々・上八田遺跡 下層：敷石住居

例　　言

1. 本書は山梨県南アルプス市において平成 17 年度に実施した埋蔵文化財試掘調査報告書である。
2. 本事業は国宝重要文化財等保存整備費補助金・山梨県文化財関係補助金を受け、南アルプス市教育委員会が実施した。
3. 調査は斎藤秀樹、田中大輔、保阪太一が担当した。
4. 本書の執筆は第Ⅱ章の 3、4、9、11 は保阪、10、12、13 は田中、それ以外は斎藤が担当し、編集は小林素子、斎藤が行った。
5. 整理作業には、飯室めぐみ、加藤由利子、神田久美子、久保田幸恵、小林、桜井理恵、廣瀬源春、古郡 明、穂坂美佐子、山路宏美、山本 愛が参加した。
6. 本調査で得られた出土品およびすべての記録は、南アルプス市教育委員会に保管してある。
7. 試掘調査から報告書作成まで、次の諸氏、諸機関にご教示、ご協力を賜った。記して感謝の意としたい。（敬称略・五十音順）
伊東悌治、横月 学、河西 保、川手婦美子、畠 大介、米山政宣、帝京大学山梨文化財研究所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター

凡　　例

1. 遺構および遺物の実測図の縮尺は、それぞれ図に明記しているが、原則として以下のとおりである。

遺物 土器、鉄製品・・・・・・1/2、1/3、1/4

石器、瓦・・・・・・1/4

2. 遺構図中で使用したスクリーントーンの凡例は以下のとおりである。



地山土



試掘坑



カクラン



砂岩層



電



石(断面)

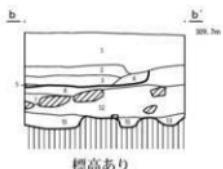


燒土

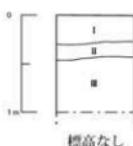


防空壕

3. 遺構の断面図、基本層序図における「309.7m」等の数値は標高を表す。また試掘調査時レベルを使用せず、地表から簡易的に測量した断面図には縦のスケールのみを表記した。



標高あり



標高なし

4. 遺物分布図におけるドットは次の遺物を表す。

土器・・・・・・・●

石器・・・・・・・■

鉄製品・・・・・・・△

5. 土器の口縁部または底部の残存率が1/4以下の破片資料については、正確な口径が求められないため断面図の右側に内面を、左側に外面を描き表現した。

6. 挿図中の遺物番号、観察表、写真図版の遺物番号はすべて一致している。

7. 試掘調査位置図は都市計画図を基に作成し、縮尺は1/5,000である。トレンチ配置図の縮尺は建築範囲に合わせて決定しているため統一しておらず、それぞれスケールを明記した。

目 次

例 言

凡 例

目 次

第Ⅰ章 平成17年度試掘調査概要	1
1. 南アルプス市概要	1
2. 調査概要	1
3. 今後の課題と展望	4
第Ⅱ章 平成17年度遺跡試掘調査概要	6
1. 上高砂 1068、1069-1	6
2. 長盛院遺跡	8
3. 東出口遺跡	11
4. 山寺 258-1 他	14
5. 榎原・天神遺跡第2地点	17
6. 辻遺跡	22
7. 前御勅使川堤防址群	37
8. 榎原・南原遺跡	41
9. 山寺 281-1、282-1-	45
10. 百々・上八田遺跡（上八田 1557）	47
11. 百々・上八田遺跡（上八田 1618-3）	51
12. 中西第2遺跡	54
13. ロタコ（御勅使河原飛行場跡）	56

第Ⅰ章 平成17年度試掘調査概要

1. 南アルプス市概要

平成15年4月1日に八田村、白根町、芦安村、若草町、柳形町、甲西町の4町2村が合併して生まれた南アルプス市は、甲府盆地の西部に位置し、総面積264.06㎢、山梨県の面積の約5.9%を占めている。市西部は北岳(3,193m)をはじめ、間ノ岳(3,189m)、仙丈ヶ岳(3,033m)、鳳凰三山など3,000m級の山々が連なる南アルプス山系となっており、森林原野が市面積の約73%を占めている。一方市東部は南アルプスやその前衛巨摩山地から流下する御勘使川や滝沢川、坪川等によって造り出された複数の扇状地が重なり合う複合扇状地となっている。市の東縁には釜無川が南流しており、扇状地が削られ氾濫原が造り出されている。

2. 調査概要

平成17年度の試掘調査は総数54件を数える。昨年度と比べ約160%と大きく増加した。公共・民間別では公共事業8件、民間事業は46件で、民間事業に伴う試掘件数が約85%を占める。調査原因別に見ると宅地造成・分譲住宅建設が突出して多く、平成15・16年度と同様な傾向を示している。こうした宅地分譲・集合住宅の増加は市の人口増加と対応関係にある。平成12年国勢調査による市域の人口は70,116人であり、山梨県の人口の7.9%を占めていた。昭和35年時点の人口と比べ3割増加しており、さらに平成18年1月1日現在の人口は72,826人を数え、長期的に見て人口増加の傾向にある。人口増加率を市内地区別で見ると、八田地区、若草地区がそれぞれ73.4%、54.6%と高く(ア

調査原因	15年度	16年度	17年度	合計
公共事業	道路	3	3	9
	学校	2	0	3
	公共施設	2	1	7
	小計	7	4	19
民間事業	個人住宅	12	2	17
	個人住宅兼店舗	2	1	5
	集合住宅	1	4	10
	工場	0	2	6
	店舗	8	3	14
	宅地造成・分譲	13	13	42
	倉庫	1	2	4
	駐車場	1	0	3
	鉄塔	1	0	8
	その他	1	3	7
小計	40	30	46	116
合計	47	34	54	135

第1表 平成15・16・17年度試掘調査原因一覧

第2表 平成17年度試掘調査一覧

No.	道跡名・試掘名	調査地	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	トレンチ数	遺 墓	遺 物	調査期間	調査詳細
1	上高野 1060-1, 1060-1	上高野 1060-1	1,114	95.76	2	高砂遺跡	瓦瓦	2005年4月21日	宅地造成(分譲住宅)
2	長瀬町遺跡	長瀬 1476	112	23.15	2	遺跡	楓文土器	2005年4月26, 27日	専用建物
3	西野 2012-1, 2012-2	西野 2012-1, 2012-2	1,209	111.12	5	なし	なし	2005年5月6日	宅地造成(分譲住宅)
4	東山 1222-2	東山 1222-2	248.35	23.32	1	なし	なし	2005年5月17日	共同住宅
5	上高野 1408-137	上高野 1408-137	198	10.63	2	なし	なし	2005年6月1日	熱湯温泉宿(さくら宿)
6	越川 1455-1	越川 1455-1	259	19.5	1	なし	なし	2005年6月1日	井筒掘削(さくら宿)
7	新山口遺跡	下高野 466他	46.76	182.86	15	住居跡、溝状遺跡、土器	高砂文化土器・古式土器 楓文・土師器等	2005年6月13(3)~24日, 7月27日	宅地造成(分譲住宅)
8	山寺 258-1他	山寺 258-1他	792	100.8	3	住居跡等	吉江土器等	2005年6月8日, 9月7日~13日	青少年儿童福祉センター
9	福原・天神遺跡第2地点	福原 777-1, 778-2	345.08	144.25	3	輪形遺跡、溝状遺跡、土器	土師器等	2005年6月30日~7月12日	専用建物
10	西平・上八田遺跡	上八田 102	146.35	10	1	なし	なし	2005年7月2日	熱湯温泉宿(NTT東海)
11	北沢の村遺跡	北沢 66-2	841	3	1	なし	なし	2005年7月14日	宅地造成(分譲住宅)
12	十五町 1270-1	十五町 1270-1	1,301	4.8	1	なし	なし	2005年7月15日	宅地造成(分譲住宅)
13	桃園 1715-1他	桃園 1715-1他	1,580.4	28.2	1	なし	なし	2005年7月29日	沿線
14	辻遺跡	山寺 385他	2,165	59.9	1	高砂遺跡	古式土器等	2005年7月31日~8月9日	宅地造成(分譲住宅)
15	江前遺跡	下高野 64-1, 64-4	466.5	6	1	なし	なし	2005年8月10日	工場
16	船野 2493-1他	船野 2493-1他	1,600	13.96	1	なし	なし	2005年8月11日	沿線
17	新御宿川棚田付近	六所 1026他	2,961	47.6	4	本田	陶器	2005年8月16, 19日	工場
18	櫛野・南原遺跡	櫛野 379-2, 371, 372-2	1,307.21	18.63	2	溝状遺跡	なし	2005年9月1日~22日	宅地造成(分譲住宅)
19	船野 4244-1他	船野 4244-1他	855	6	2	なし	なし	2005年9月1日	宅地造成(分譲住宅)
20	西野 1294-8	西野 1294-8	1,300.44	11.56	2	なし	なし	2005年9月2日	別荘場
21	川上 476-1他	川上 476-1他	2,590	14	1	なし	なし	2005年9月8日	別荘場
22	森畠田 130-2	森畠田 130-2	811	7.26	1	なし	なし	2005年9月9日	宅地造成(分譲住宅)
23	曲田 131-1, 131-4	曲田 131-1, 131-4	702	6	1	なし	なし	2005年9月9日	宅地造成(分譲住宅)
24	新御宿川棚田付近	六所 1108-1, 1111-1	688.84	3.12	1	なし	なし	2005年10月10日	宅地造成(分譲住宅)
25	船野 3680-3, 3684-5	船野 3680-3, 3684-5	1,400	18.8	2	溝状遺跡?	なし	2005年10月12日	共同建設
26	中西101	中西 1257	794	2.8	1	なし	なし	2005年10月17日	宅地造成(分譲住宅)
27	在新屋 238-1	在新屋 238-1	849	6.3	2	なし	なし	2005年10月18日	アパート棟
28	山寺 281-1, 282-1	山寺 281-1, 282-1	2,321	74.57	1	高砂遺跡、土坑	土師器・泥質器	2005年10月19日	宅地造成(分譲住宅)
29	新御宿川棚田付近	桃園 794-16	1,998.39	5	1	なし	なし	2005年10月19日	別荘場
30	加賀美系遺跡	加賀美 3219-1, 3223	858	5.95	1	なし	なし	2005年10月20日	宅地造成(分譲住宅)
31	曲田 740	曲田 740	131.2	6	2	なし	なし	2005年10月21日	共同建設
32	上高野 1029	上高野 1029	130	6	1	なし	なし	2005年10月21日	別荘場
33	墨山 1092	墨山 1092	1,910.89	4.08	1	なし	なし	2005年10月31日	別荘場
34	西平・上八田遺跡	上八田 1287-1	1,378.74	3	1	なし	なし	2005年11月15日	個人住宅
35	西野 2284-1, 2284-2	西野 2284-1, 2284-2	1,590	10	2	なし	なし	2005年11月15日	アパート棟
36	上高野 717-1他	上高野 717-1他	1,910	53.06	5	なし	なし	2005年11月16, 17日	合構建設
37	新屋大遺跡	下高野 1403-3他	4,384	98.68	15	溝状遺跡	なし	2005年11月21日~30日	工場掘削
38	在新屋 921-1, 921-1	在新屋 921-1, 921-1	1,034	26	1	なし	なし	2005年11月22日	森畠田
39	在新屋系遺跡	在新屋 2719	100	4	1	なし	なし	2005年11月28日	別荘場
40	在新屋・西野内	在新屋・西野内	6,000	116.14	36	なし	なし	2005年11月29日~12月6日	農道
41	桃園 617-1	桃園 617-1	1,136	8.3	2	なし	なし	2005年12月2日	沿線
42	西平・上八田遺跡	上八田 515-3他	526	49.5	5	ピット	土師器・陶器	2005年12月7日~9日	赤道西16号線

No.	遺跡名・試掘名	調査地	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	トレンチ数	遺構	遺物	調査期間	調査原因
43	古河・上六田遺跡	上六田 1557	101.44	4.5	1	壁穴性遺跡 1、倒壊 1 倒壊構造 1、セント 2 瓦	陶文土器・石器・土 器底・動物遺体・漆 瓦類	2005 年 12 月 8 日～15 日	個人住宅
44	古河・上六田遺跡	上六田 1618-3	932.56	6	2	半剖時代住居跡 1、 セント 1-4	陶文土器・土器底	2006 年 1 月 16 日～19 日	個人住宅
45	飯野 2851	飯野 2851	112.64	15	1	なし	なし	2006 年 1 月 19 日	総合福祉センター(古河)
46	平田 2599-7	平田 2599-7	200	4	1	なし	なし	2006 年 2 月 2 日	農開駆除
47	前原町北二地区住跡	JR 東日本 1	517	4.62	1	土塁	なし	2006 年 2 月 13 日	工場
48	市家町 1320-2 地	市家町 1320-2 地	1,232	6.12	1	なし	なし	2006 年 2 月 17 日	トヨタクスティーション
49	横道川遺跡	下市立瀬 1109	4,080	75.22	13	なし	なし	2006 年 2 月 20 日～3 月 14 日	市立總合 4 号館
50	上今田跡 1230-1 地	上今田跡 1230-1 地	11,000	53.84	8	なし	なし	2006 年 2 月 21 日	サッカー場
51	飯野 491	飯野 491	950	3	1	なし	なし	2006 年 3 月 6 日	小学短体更級
52	古河平遺跡	野手集 2433-1 地	715.41	21.5	2	なし	なし	2006 年 3 月 7 日	集会性質
53	羽田野 1 遺跡	羽中島 935、941	1,742	14.59	3	なし	なし	2006 年 3 月 9 日	宅地造成(分譲住宅)
54	中西第 2 遺跡	寺原 1191-1	687	17	3	住居址 3、土坑 3、溝 の遺跡 1	骨灰罐・土器底土器	2006 年 3 月 10 日～13 日	宅地造成(分譲住宅)

第 3 表 平成 17 年度発掘調査一覧

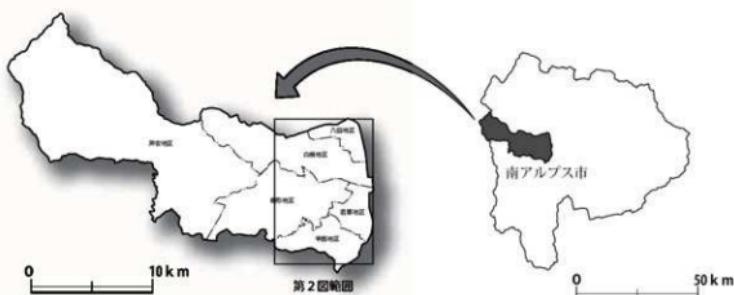
No.	遺跡名・試掘名	調査地	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	トレンチ数	遺構	遺物	調査期間	調査原因
1	口々コ 湯治施設 1 遺跡区	飯野 1463.2	—	24.69	2	漆器底	なし	2005 年 7 月 19 日～8 月 5 日	総合福祉調査
2	口々コ 湯治施設 2 遺跡区	飯野 1426-1、1475-1	—	9.26	1	漆器底	なし	2005 年 7 月 19 日～8 月 5 日	総合福祉調査
3	口々コ 3 号掩体壕	飯野 4182.2	—	9.08	1	廻体壕	瓦、木材	2005 年 7 月 19 日～8 月 5 日	総合福祉調査

ループスプラン 2005 現状分析』)、合併後の試掘調査が多い地域と一致している。こうした人口増加には、商業エリアの拡大、新山梨環状線の開通、市名によるイメージアップ、景気回復等の要因を背景として、都市部などからの人口移動を受け入れる宅地の供給が進められた現状が反映されていると考えられる。17 年度の特徴としては鉄塔建設に伴う調査が 6 件と増加した。携帯電話サービスの拡大がその背景にある。

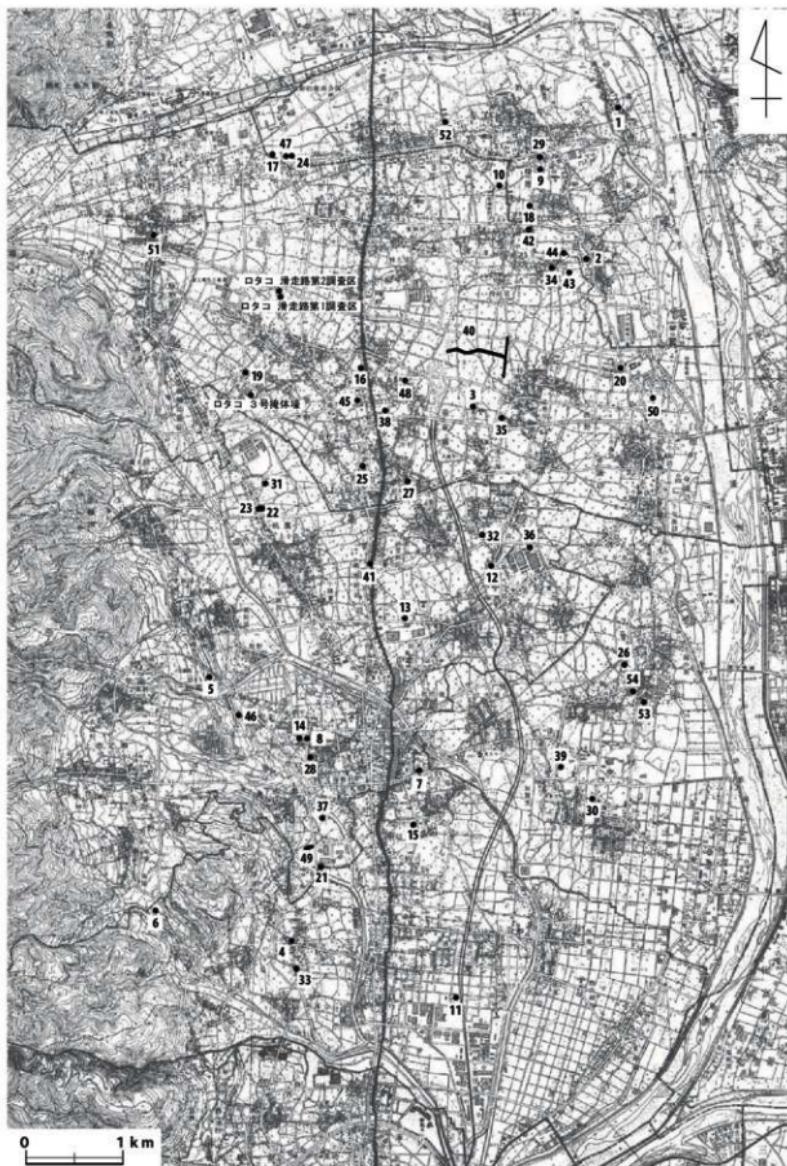
3. 今後の課題と展望

『第 1 次南アルプス市総合計画』の「第 2 章市の将来像」において、市内における土地利用の現状とそこから今後の土地利用の変化が推計されている。推計結果によれば、平成 26 年(2014 年)の本市の土地利用状況を平成 12 年(2000 年)と比較すると、農用地が 10% 減少する一方で、事業所・店舗用地(17.2% 増)、住宅用地(7.8% 増)、道路(5.4% 増)、工業用地(4.2% 増)などが増加する見込みとなっている。全体的な傾向として市街地周辺部を中心農用地の宅地転換が進み、農用地面積は徐々に減少する傾向は避けられないものと考えられている。こうした推計結果から、平成 26 年までは市内における開発件数は横ばいかやや増加する傾向にあり、試掘調査の件数もその状況を反映するものと推測される。また、宅地分譲が高い比率を示す調査原因の構成比率は、ここ数年とほぼ同じ傾向を示すと考えられる。

今後は、増加する開発に対応しながらも、これまで蓄積した試掘調査資料を効率よく活用した埋蔵文化財保護業務の効率化が求められる。効率化のためには、保護の判断材料となる基礎資料つまりこれまで得られた試掘・本調査結果だけでなく、窓口での照会、文化財保護法関係文書等の様々な情報を GIS 等のデジタルシステムで一元化し、情報を共有するデジタルデータベースを構築することが必要であろう。今後も試掘や立会調査を含めた基礎資料を蓄積するとともに、情報を有効活用し、埋蔵文化財の保護対応の正確さおよび迅速化に努めていくことが今後の市行政が進めるべき課題である。



第 1 図 南アルプス市位置図(1/40 万、1/200 万)



第2図 試掘調査地点位置図 (1/50,000)

第Ⅱ章 平成 17 年度遺跡試掘調査概要

1. 上高砂 1068、1069-1

調査地 上高砂 1068、1069-1

調査原因 宅地造成（分譲住宅）

調査期間 平成 17 年 4 月 21 日

対象／調査面積 1,114 m² / 95.76 m²

調査概要

調査区は釜無川氾濫原に位置する。調査区は上高砂集落の北端で、西側には野牛島、上高砂、下高砂、徳永の旧 4ヶ村を主に灌漑する四ヶ村堰が南北に流れている。

合計 2 本のトレンチを設定した。調査の結果、第 1 トレンチの地表から約 1.15 m の地点で溝状遺構を 1 条検出した。溝は幅約 75cm、深さ約 30cm、東西南向に走る。溝状遺構上には表土まで約 80cm の砂礫層が堆積していた。溝際から近代の所産と推測される丸瓦を検出した。

明治 29 年、御勤使川、前御勤使川、釜無川が決壊して起きた洪水により、上高砂の多くの家屋、田畠が土砂に埋没しており、その被害状況を写した写真も残されている。堆積状況や出土遺物から本調査で検出した溝状遺構は、明治 29 年の洪水によって埋没したと推測される。

保護協議の結果、工事の掘削深度が遺構に影響しないため現状保存とし、工事が着工された。



調査地位置図



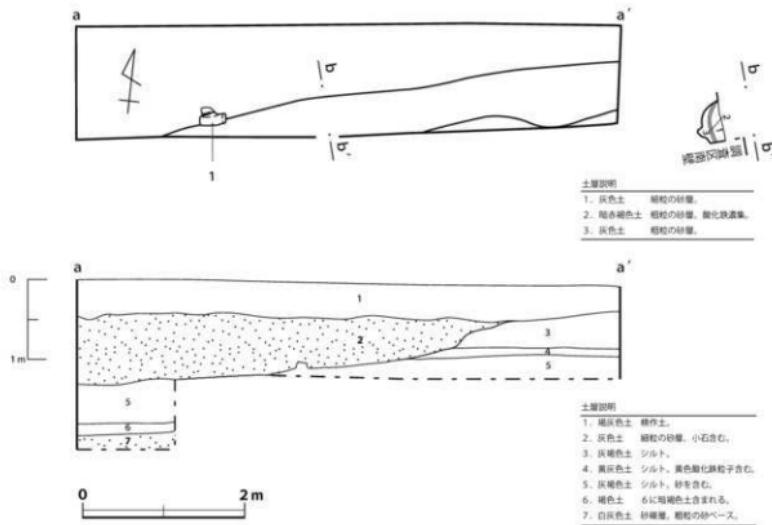
第3図 上高砂 1068、1069-1 トレンチ配置図
(1/1,000)



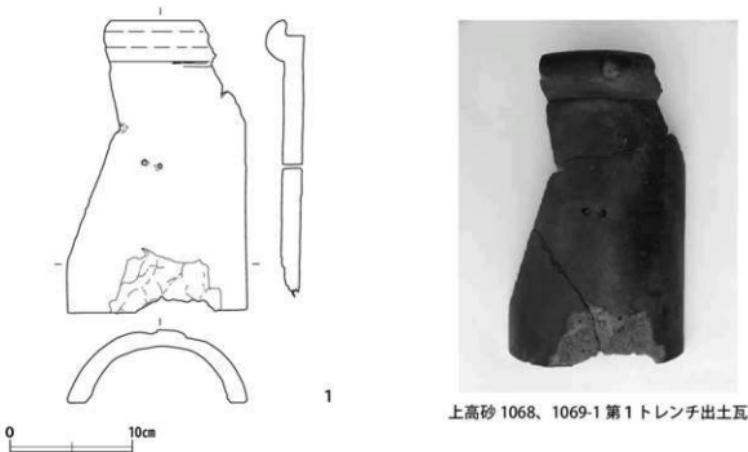
明治 29 年洪水被害状況（上高砂）



溝状遺構検出状況



第4図 上高砂 1068、1069-1 第1トレンチ平・断面図 (1/60)



第5図 上高砂 1068、1069-1 第1トレンチ出土遺物 (1/4)

2. 長盛院遺跡

調査地 徳永 1678

調査原因 寺院建替

調査期間 平成 17 年 4 月 26、27 日

対象／調査面積 132 m² / 23.35 m²

調査概要

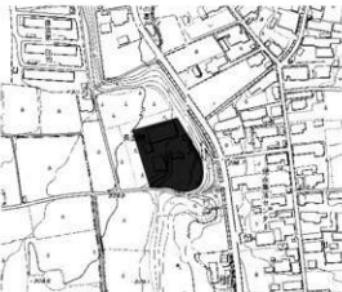
調査区は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査区の東側には扇状地と氾濫原を区画する浸食崖が南北に走り、遺跡はこの崖上に立地する。

本工事はこれまで長盛院の本堂として利用されてきた文政 11(1828) 年建立の庫裡を解体し、新たな本堂を建立する計画である。長盛院は戦国時代、武田氏に仕えた金丸氏の館跡と伝えられ、現在でも寺院東側には土塁が残されている。長盛院は当初徳永の西北宇姥神に造られていたと言われ、江戸時代初期、現在の地に移ったとされている。南西側には徳永・御崎遺跡が位置し、繩文時代後期の配石遺構、敷石住居、古墳時代後期の住居址および平安時代の住居跡が発見、調査されている。

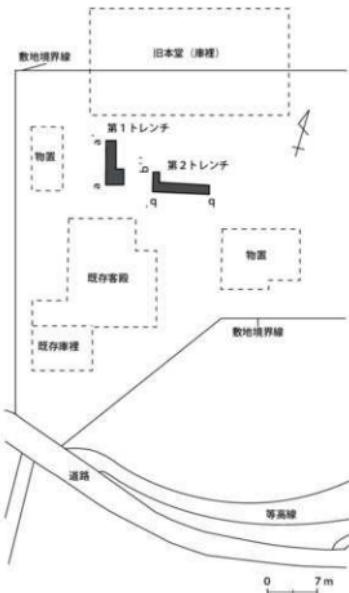
合計 2 本のトレンチを設定した。調査の結果、第 1、第 2 トレンチから基壇状の遺構を検出した。

基壇状遺構は確認した範囲では、褐色土層で造られている。第 1 トレンチでは基壇北側の土留めと考えられる石列を検出した。約 10 ~ 30cm の石が東西方向へほぼ直線に並べられている。基壇上面と下の比高差は約 15cm を測る。第 2 トレンチでは基壇東側を区画する段差を検出した。基壇上面と下の比高差は約 30cm である。この部分からまとまって検出した石は、土留石が崩れたものと考えられる。検出した基壇部分には明治時代まで旧本堂が建てられていたことから旧本堂の基壇であると考えられる。

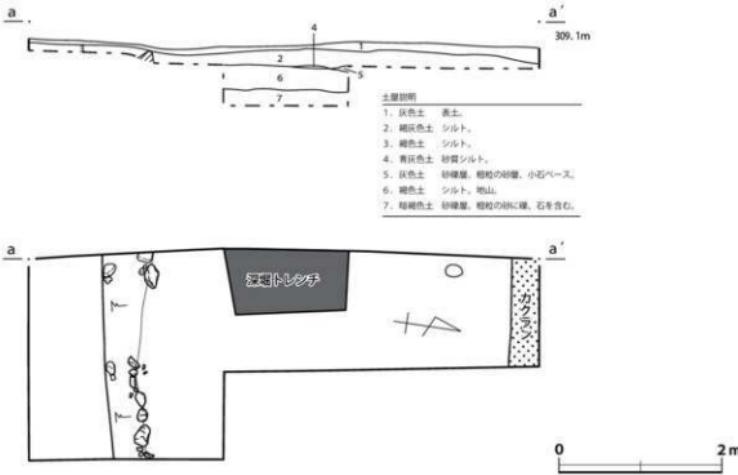
保護協議の結果、工事の掘削深度が遺構に影響しない設計・工法であるため現状保存とし、工事が着工された。



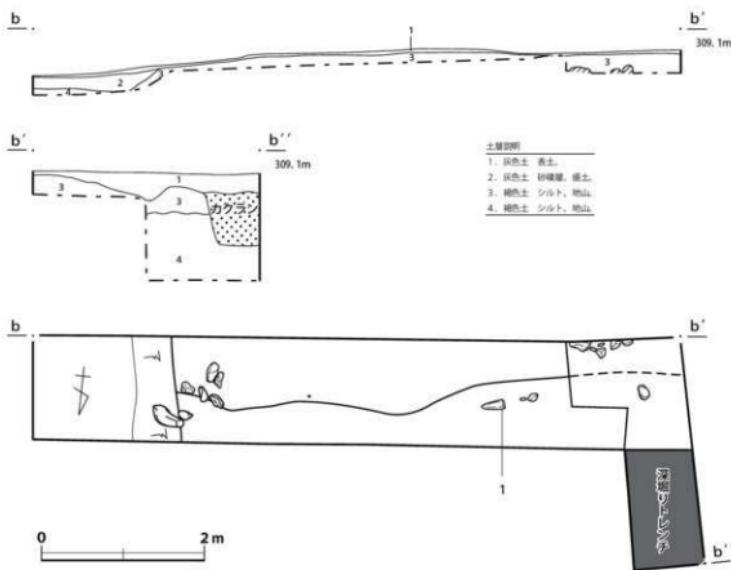
調査位置図



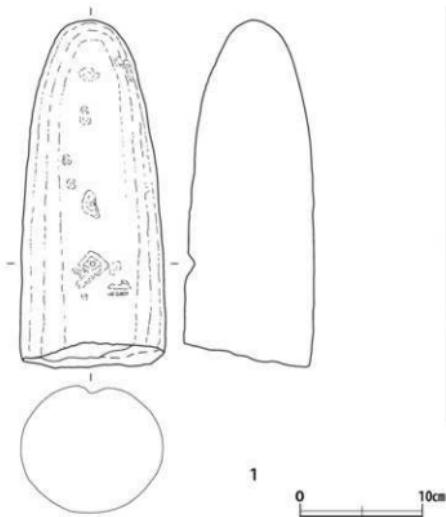
第6図 長盛院遺跡トレンチ配置図 (1/700)



第7図 長盛院遺跡第1トレーニング (1/60)



第8図 長盛院遺跡第2トレーニング (1/60)

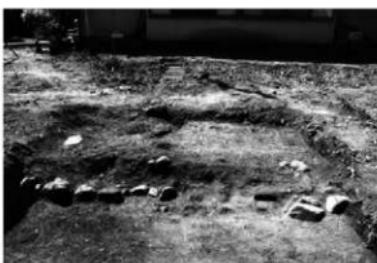


長盛院遺跡第2トレンチ出土石棒

第9図 長盛院遺跡第2トレンチ出土遺物（1/4）



第1トレンチ全景（北から）



第1トレンチ基壇状遺構北端（北から）



第2トレンチ基壇状遺構東端（東から）

3. 東出口遺跡

調査地 下宮地 686 他

調査原因 宅地造成(分譲住宅)

調査期間 平成 17 年 6 月 13 日～24 日

平成 17 年 7 月 27 日

対象／調査面積 4,678 m² / 182.86 m²

調査概要

調査地点は櫛形山を水源とする滝沢川の右岸、現河道の西約 200 m に位置し、御勅使川扇状地扇端部と滝沢川が造り出す扇状地との複合地形に立地する。

調査区周辺には湧水地点が点在し(枇杷ヶ池、清明池、三角池など)、扇端部の特徴を示している。付近にはこれまでにも弥生時代～古墳、奈良時代の集落の存在が確認されている。

本計画は工場跡地における宅地造成計画であり、試掘調査では、道路設置予定範囲内を中心に合計 15 本のトレンチを設定した。

調査の結果 15 本のうち 8 本のトレンチで明確な遺構が検出され、またほぼ全てのトレンチで遺物が出土した。計画地内での傾向としては、北西から南東へと傾斜する地形に合わせて複数の流路跡が検出され、その下部に遺構確認面である黒褐色シルト層が検出された。深度は西側で約 80 cm を測り、東側では流路による削れが顕著である。この黒褐色シルト層は周辺地域では遺物包含層としてとらえられ、本層の下面を遺構確認面とするケースが多い。本調査地点では黒褐色シルト層の中にほぼ同じ土色を覆土とする遺構が重複して存在することが判明した。

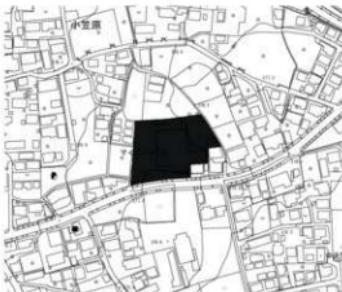
黒褐色シルト層は約 80 cm の層厚を計りその下層には黄褐色を呈したシルト層が検出される。このシルト層へ掘り込んだ形で黒褐色シルトの窪みが検出されたため 2 面目の遺構確認面といえる。

発見された遺構と遺物

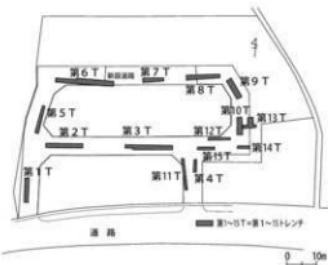
調査区南西部を中心にほぼ全面で住居址とみられる遺構が重複して確認された。そのプランは把握しにくいものの炉跡もしくはカマド跡とみられる焼土が多数検出された。一部床面も検出されている。その他、溝状遺構、土坑も複数検出されている。

遺物は弥生時代中期頃の条痕文系上器片や、弥生時代末～古墳時代初頭の土器片ならびに平安時代中ごろの土師器片が出土している。それらの遺物から、連綿と長期間にわたる人々の営みがあったことが窺える。

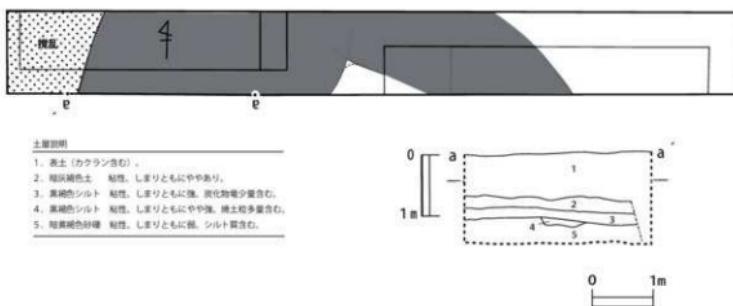
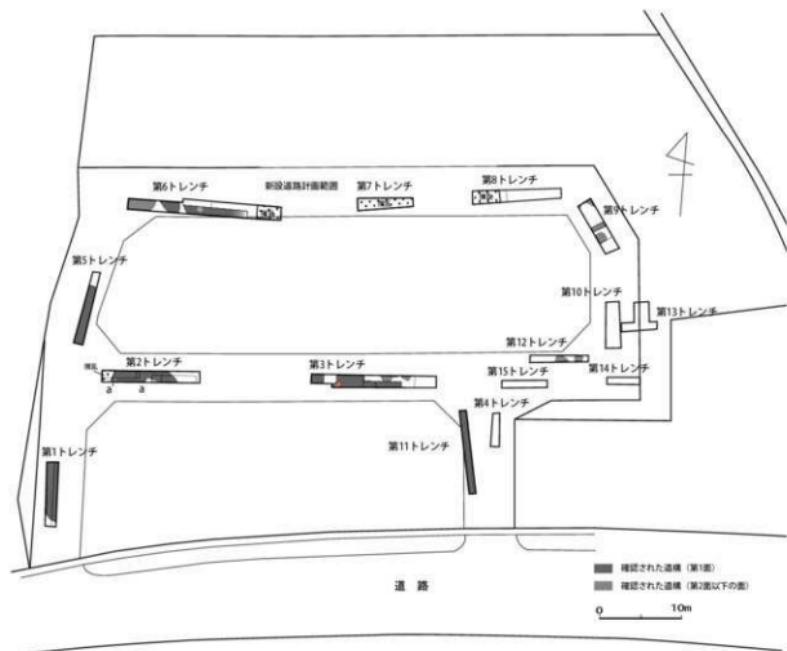
当計画地はいわゆる周知の埋蔵文化財包蔵地「東出口遺跡」の隣接地であったが、この試掘調査により、東出口遺跡の範囲変更をおこなっている。本計画で行なわれる造成工事では遺構は現状保存されるが、計画地内に公道予定地があり、恒久的工作物とみられることからその範囲内において事前調査が必要となる。引き続き協議を行い、平成 18 年 3 月より事前調査が実施されている。



調査地位置図



第10図 東出口遺跡トレンチ配置図(1/1600)



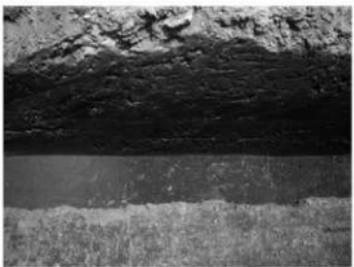
第12図 東出口遺跡第2トレンチ平・断面図(1/80)



第1 レンチ作業風景



第2 レンチ遺構確認状況



第3 レンチ第2面遺構確認面遺構確認状況



第3 レンチ全景



第12 レンチ全景



第6 レンチ遺物出土状況

4. 山寺 258-1 他

調査地 山寺 258-1 他

調査原因 青少年児童福祉センター

調査期間 平成 17 年 6 月 28 日

平成 17 年 9 月 7 日～13 日

対象／調査面積 792 m² / 100.8 m²

調査概要

調査地点は櫛形山を水源とする漆川によって造り出された扇状地の北端に立地し、北東へ向かって傾斜する。調査地点の北側には同じく滝沢川によって造り出された扇状地があり、小さな扇状地同士によって谷を挟む形となる。

本試掘調査は、南アルプス市による市立青少年児童センター建設計画に伴うものである。今回の試掘調査に先立ち、本計画地のうち南側の半分については既に試掘調査が実施され、遺構・遺物とともに検出されていない。よって北側の半分を対象にトレンチを 3 箇所設定した。

第 1・第 2 トレンチでは遺構は検出されなかったが、敷地の最北端に設定した第 3 トレンチで遺構が検出された。

発見された遺構と遺物

検出された遺構は住居址とみられる竪穴状遺構 1

基であった。確認面までの掘削深度は現状地盤から約 80 cm を測る。センターの建設予定地は敷地のほぼ中央であり、遺構が検出された箇所は若干の盛土を伴う駐車場予定地であるため、遺構の現地保存へ向け調整を始めることとなった。

その後遺構検出地点において、浸透式側溝の設置が決まり、掘削幅 1 m 以下の狭小な工事であることから県の基準により立会調査を実施することとなった。

平成 17 年 9 月 7 日、立会調査の際に遺構が検出され、第 3 トレンチで検出された遺構と同一であるとみられたため、急速拡張し、記録保存のため緊急調査を実施した。

検出された遺構は竪穴式住居址 1 軒。

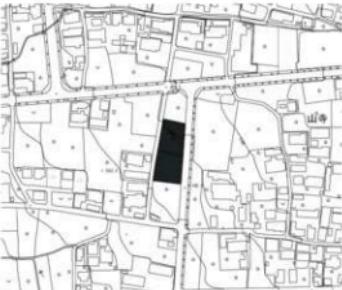
1 号住居址

形状／規模 遺存状態は良好で確認面から床面まで深さは約 70 cm である。形状は隅丸方形で東西約 3.1m、南北約 3.2 m を測る。

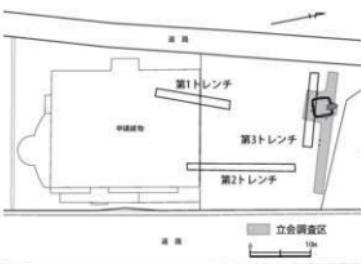
床面／柱穴 地山が砂礫層であり床面の区別は困難である。柱穴も確認できない。

竈 中心軸からやや東よりの北壁に造られている。袖ならびに心材などは認められず、一部に黄褐色を呈した粘土ブロックが含まれ、袖の名残とみられる。

遺物 覆土内からは周辺での調査事例と同様に弥生時代末から古墳時代初頭の土器片が出土し、住居址に帰属するとみられる遺物は出土しなかった。

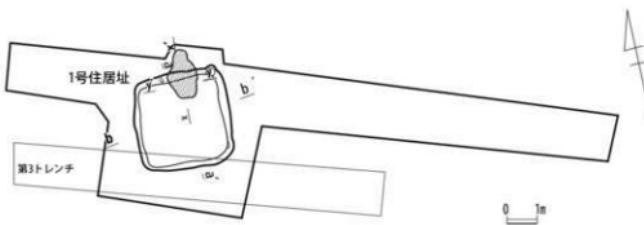


調査位置図

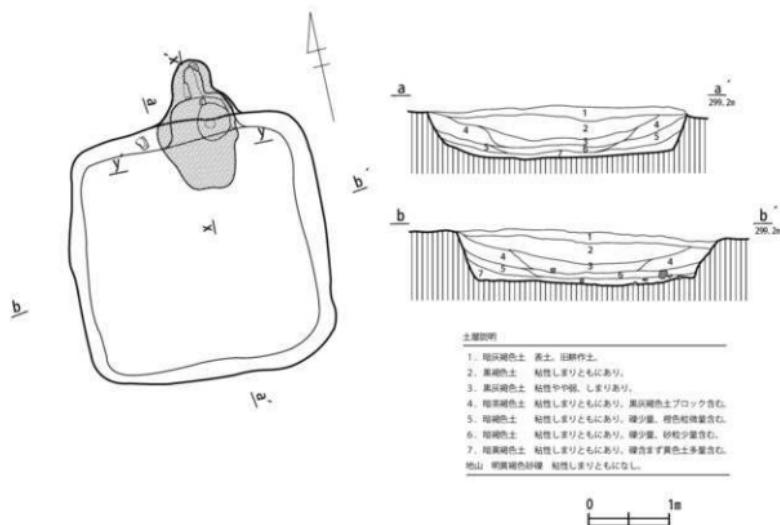


第 13 図 山寺 258-1 他トレンチ配置図

(1/800)



第14図 山寺 258-1 他立会調査区全体図 (1/160)



第15図 山寺 258-1 他 1号住居址平・断面図 (1/60)



第16図 山寺 258-1 他 1号住居址竪断面図 (1/60)



第1トレンチ全景



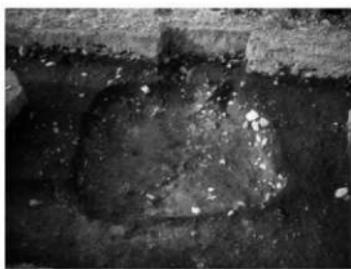
第3トレンチ全景



立会調査区住居址確認状況



1号住居址土層断面（南面）



1号住居址全景



立会調査区全景

5. 横原・天神遺跡第2地点

調査地 横原 777-1、778-2

調査原因 事務所建築

調査期間 平成17年6月30日～7月12日

対象／調査面積 545.08 m² / 144.25 m²

調査概要

調査区は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査区北側150mには、明治時代まで前御勅使川であった県道甲斐芦安線が東西に走っている。

調査区北西側の横原・天神遺跡では10世紀の竪穴式住居2軒および中世の区画溝が発見、調査されている。

合計3本のトレンチを設定した。第3トレンチでは竪穴建物、溝状遺構、土坑を検出した。

発見された遺構と遺物

竪穴建物

調査区南東端から竪穴建物跡を発見した。住居址の可能性が高いが、全体を検出していなかったため、本書では竪穴建物として報告する。

遺存 遺存状態は良好で、確認面から床面まで約60cmである。

形状／規模 遺構が調査区外へ延びているため正確な形状・規模は不明であるが、検出した部分から隅丸方形プランを呈する可能性がある。

床面 地山である粘土層を床面とし、表面はやや凹凸がある。硬化面は検出できなかった。

壁溝 遺構西よりの中央から東へ延び、北壁の壁溝となる溝を検出した。溝は西から東へ傾斜している。遺構の床面が粘土層であるため水が浸透せず、調査中雨が降った時にはこの溝が東への自然の排水溝となった。溝本来の役割も排水にあったと考えられる。

遺物 竪穴建物床面上から土師器甲斐型皿を検出した。残存率1/4、口径14cm、底径6.6cm、器高1.95cmを測る。内部に暗文、外面底部にヘラケズリが施されている。胎土は密で橙色を呈する。

溝状遺構

1号溝

幅約60cm、深さ約15cmを数える。西から東へ延び、底面標高は西端で319.056m、東端で318.694mを測る。

2号溝

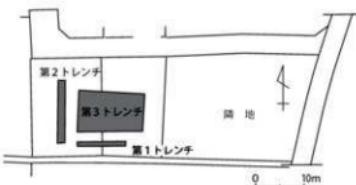
幅約70cm、深さ約15cmを数える。南から北へ延び、底面標高は北端で319.036m、南端で319.030mを測る。1号溝を切って造られている。

3号溝

幅約40cm、深さ約10cmを数える。南から北へ延び、底面標高は北端で319.114m、南端で319.093mを測る。1号溝を切って造られている。

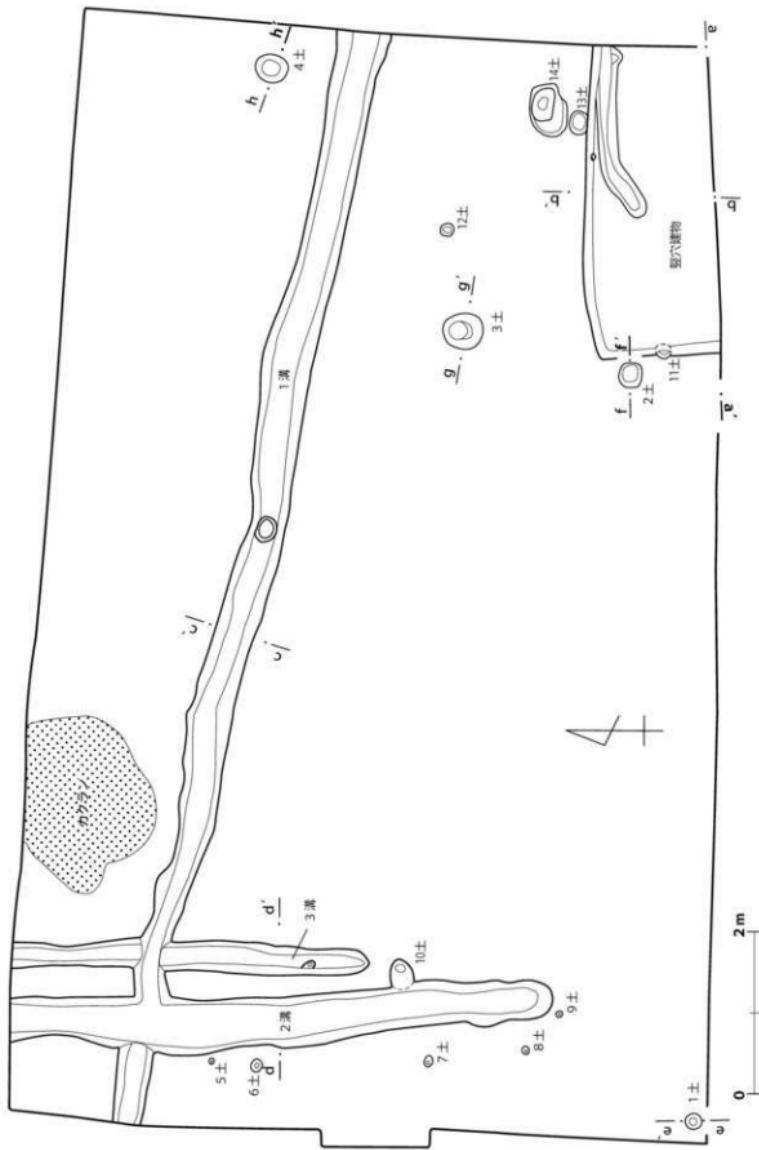


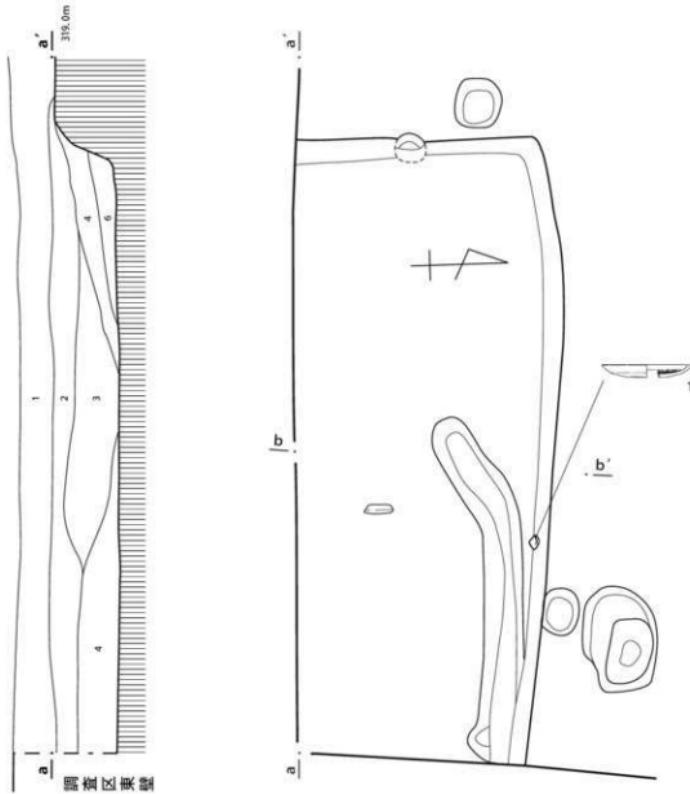
調査地位置図



第17図 横原・天神遺跡第2地点トレンチ配置図
(1/1,000)

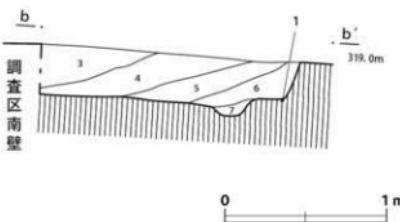
第18図 横原・天神遺跡第2地点第3トレンチ全体図(1/60)



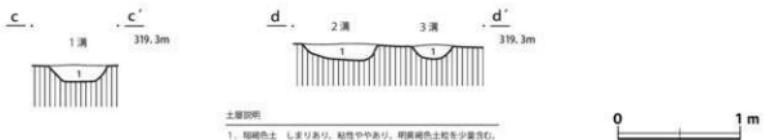


土層説明

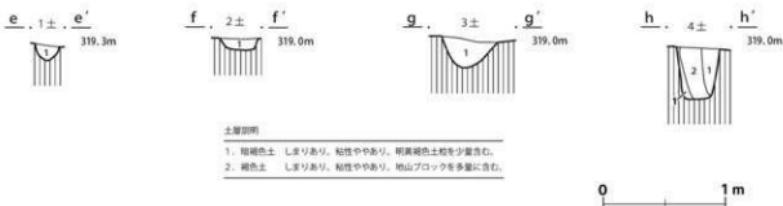
1. 砂状色土 表土。耕作土。砂を含む。
2. 細粒色土 しまりあり。粘性質通。
3. 細粒色土 しまりあり。粘性ややあり。明礬細色土を少量含む。
4. 潤色土 しまりあり。粘性ややあり。明礬潤色土粒を少量含む。
5. 細粒色土 しまりあり。粘性ややあり。明礬細色土粒を少量含む。
6. 細粒色土 しまりあり。粘性ややあり。明礬細色土粒を少量含む。
7. 潤色土 しまりあり。粘性ややあり。明礬潤色土を含む。



第19図 櫻原・天神遺跡第2地点竪穴建物平・断面図 (1/30)



第20図 横原・天神遺跡第2地点溝状造構断面図(1/40)



第21図 横原・天神遺跡第2地点土坑断面図(1/40)



第22図 横原・天神遺跡第2地点竪穴建物出土遺物(1/3)

第4表 横原・天神遺跡第2地点土坑計測表

番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
1	円形	22	20	11.0	319.034	
2	円形	30	28	8.0	318.831	
3	円形	50	45	23.0	318.661	
4	円形	40	35	43.0	318.414	柱痕を検出
5	円形	7	6	—	—	
6	円形	16	14	—	—	
7	楕円形	14	10	6.7	319.080	
8	円形	10	9	7.2	319.069	
9	円形	8	8	11.5	318.995	
10	不整形	38	27	14.1	318.995	
11	円形	19	18	19.7	318.725	
12	円形	17	16	5.1	318.829	
13	楕円形	29	23	6.2	318.799	
14	不整形	65	46	15.3	318.705	

土坑

土坑 14 基を検出した。一定間隔に土坑が並ぶ掘立柱建物は発見できなかった。ただ 14 号土坑では柱痕が見られた。個々の形状や規模については土坑計測表を参照していただきたい。

総括

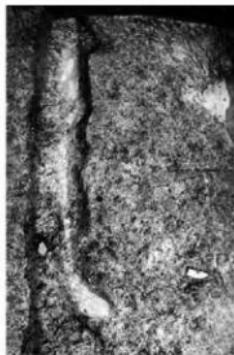
本調査の結果、竪穴建物 1 軒、溝状遺構 3 条、土坑 14 基を検出した。竪穴建物は床面から出土した土師器皿（1）から見ると、宮ノ前編年ではほぼⅥ期、甲斐型編年でⅦ期、9世紀中頃に比定される。比定資料が 1 片のため確実ではないが、10 世紀初頭の竪穴式住居址が 2 軒発見されている榎原・天神遺跡と比べやや古い時期の遺構であり、榎原・天神遺跡東側、扇状地先端部に時期がやや遅る古代集落が広がることが明らかとなった。



第3トレンチ全景（北西から）



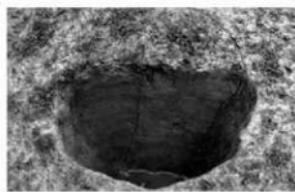
第3トレンチ竪穴建物（北から）



第3トレンチ竪穴建物内
壁溝検出状況（西から）



第3トレンチ1号溝状遺構
(東から)



第3トレンチ4号土坑断面
(東から)

6. 遺跡

調査地 山寺 388 他

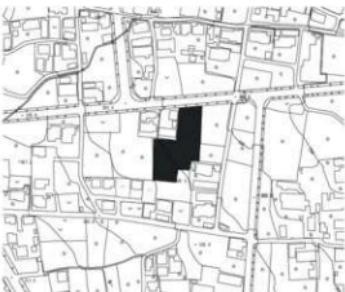
調査原因 宅地造成(分譲住宅)

調査期間 平成 17 年 7 月 31 日～8 月 9 日

対象／調査面積 2,165 m² / 59.9 m²

調査概要

調査区は、漆川左岸に位置し漆川小扇状地の扇端部に位置している。地形は西から東へゆるやかに傾斜し標高は約 302.0 ~ 300.9 m を測る。周辺の遺跡としては市之瀬台地先端に 5 世紀前半の築造とされる前方後円墳・物見塚古墳が立地する。本遺跡と同じ



調査地位置図

台地下の扇状地上では、漆川右岸の扇状地上に後期古

墳である上村古墳・狐塚古墳・鎧物師屋古墳があり、いずれも群集墳を形成していた。同扇状地上に古地する鎧物師屋遺跡は、縄文時代中期と平安時代の大規模集落跡である。また、小笠原およびその周辺は平安時代末から鎌倉時代、甲斐源氏小笠原長清が支配した地域であった。調査区から東へ 500m の地点には、小笠原氏の館跡と伝えられる小笠原小学校が位置している。

平成 16 年度この地に宅地分譲が計画されたことから、施主からの依頼を受け市教育委員会が試掘調査を実施した。調査の結果、溝状遺構や土坑等を見ついた。調査結果を踏まえ市教育委員会と施主とで協議を行い、最終的には宅地全体を盛土保存とし、下水道部分については立会調査を行うことで合意した。平成 17 年 7 月 31 日、立会調査を行った際に溝状遺構や土坑を発見、即座に緊急調査を実施した。調査の結果、住居址 1 軒、溝状遺構 6 条（内 1 条は方形周溝墓）、土坑 29 基を検出調査した。

発見された遺構と遺物

住居址

1 号住居址

遺存 遺存状態は良好で、確認面から床面まで約 55cm である。

切合 土坑 10 を切って造られている。

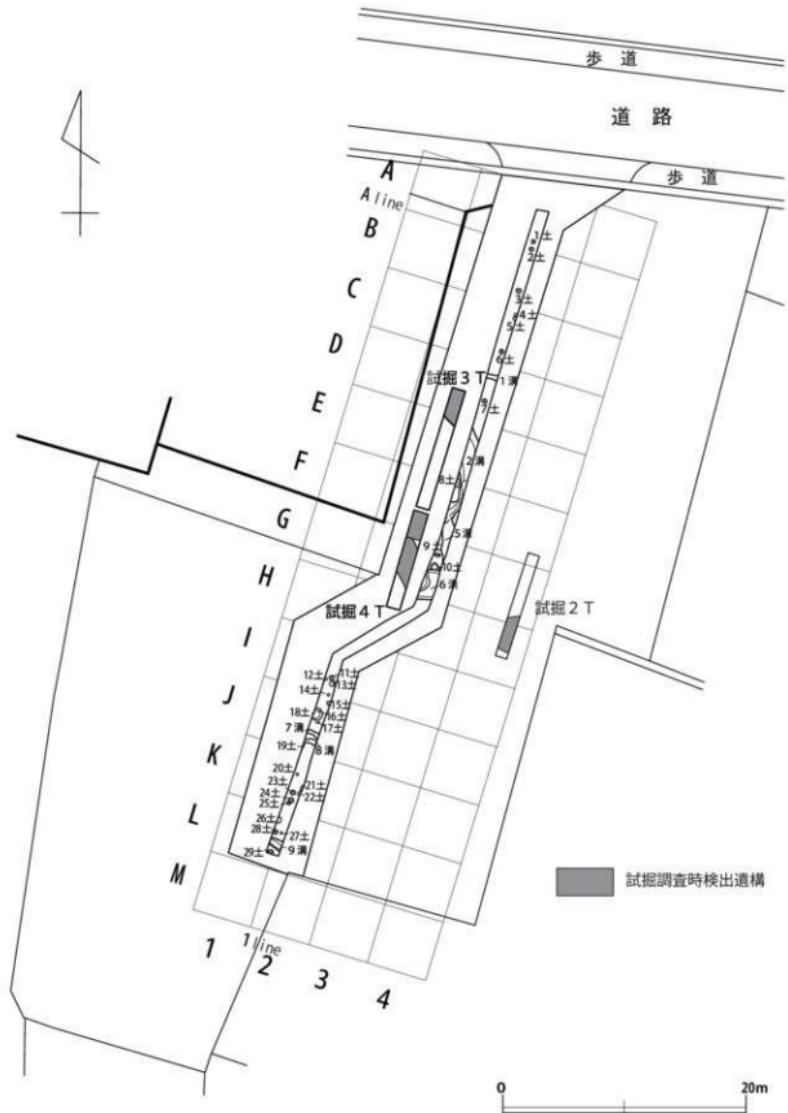
形状／規模 上端幅約 2.55m、下端幅約 2.1m を測る。調査範囲が狭小なため、形状は不明である。
溝状遺構である可能性もある。

底面 地山である粘土層を床面とし、表面はやや凹凸がある。調査区西壁側には上端幅 1.9m、下端幅 1.85m の土坑が掘り込まれている。土坑の覆土には炭化物、黒褐色土を含む黄褐色土（5 層）で、その上には炭化物を多量に含む黒褐色土層が堆積している。

焼土 住居址中央北よりの地点で 30 × 20cm の焼土を検出した。焼土の南と西側に 25cm 前後の石が見られる。

覆土 床面上には 10 ~ 20cm の石がやや多く含まれている。

遺物 床面付近から古墳時代前期の甕片が多く出土した。1 は口唇部に刻目をもつ甕の口縁部破片である。一方、溝北際から平安時代の釜型土器（2）が出土した。古墳時代前期の溝状遺構、方形周溝墓の可能性もあるが、釜型土器片や遺構の断面形態等から本報告では平安時代の住居址としておく。釜のすぐ西隣には先端が「く」の字に屈曲した鉄製の鏃（3）を検出した。出土状況から、土圧によって曲がったのではなく、人為的に曲げられた後廃棄されたと考えられる。住居廃棄に伴う



第23図 汗遺跡全体図 (1/400)

祭祀行為であるとも推察される。

溝状遺構

1号溝

幅約45cm、深さ約4cmを数える。西から東へ延び、底面標高は西端で300.390mを測る。

2号溝

当初、3条の溝の重複と想定し、2、3、4号まで溝番号を付けたが、調査中の土層観察から3条の溝を2号溝1条とした。溝の形状および出土遺物から方形周溝墓と考えられる。2号溝は5号溝の北側を切って造られている。

遺存 遺存状態は良好で、確認面から底面まで約60cmである。

形状／規模 遺構が調査区外へ延びているため全体の形状・規模は不明である。東溝は推定上端2m、下端1.2mを測り、断面形はたらい状を呈する。南溝は上端幅1.85m、下端幅0.7mを測り、断面形は東溝と同様にたらい状を呈する。東溝と南溝の接合部つまり方形周溝墓南東コーナーは溝幅が急に狭くなっている、上端幅0.7m、下端幅0.2mを測る。

底面 表面は凹凸がある。調査区東壁際に幅約1.2m、深さ10cmの浅い土坑が掘られている。

覆土 溝際には褐色土が三角堆積し、溝中央には石を多量に含む黒褐色土が堆積している。

遺物 2号溝の東溝から多量の石と共に高环、器台、S字状口縁台付甕、砥石等のまとまった遺物を検出した。石および集中した遺物は床面から若干上の地点から出土している。1の高环は口縁および底部を一部欠いているだけで、おそらく完形の個体のまま遺棄されたと推測される。

5号溝

幅約1m、深さ約24cmを数える。南から北へ延び、底面標高は北端で300.338mを測る。覆土から直径10～50cmの石が多数出土した。

6号溝

欠番。調査当初は溝状遺構としたが、整理段階で1号住居址に変更した。

7号溝

幅約40m、深さ約15cmを数える。西から東へ延び、底面標高は西端で301.196mを測る。

8号溝

幅約45m、深さ約25cmを数える。西から東へ延び、底面標高は西端で301.191mを測る。

9号溝

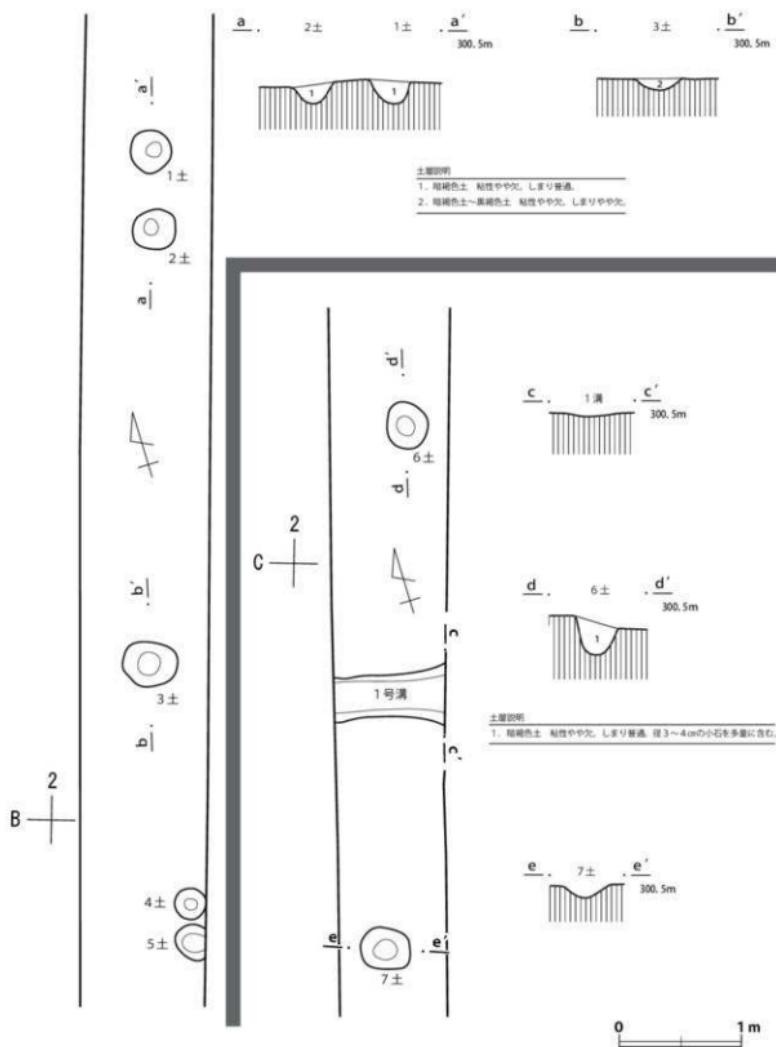
幅約80m、深さ約33cmを数える。西から東へ延び、底面標高は西端で301.299mを測る。断面形は逆台形を呈する。

土坑

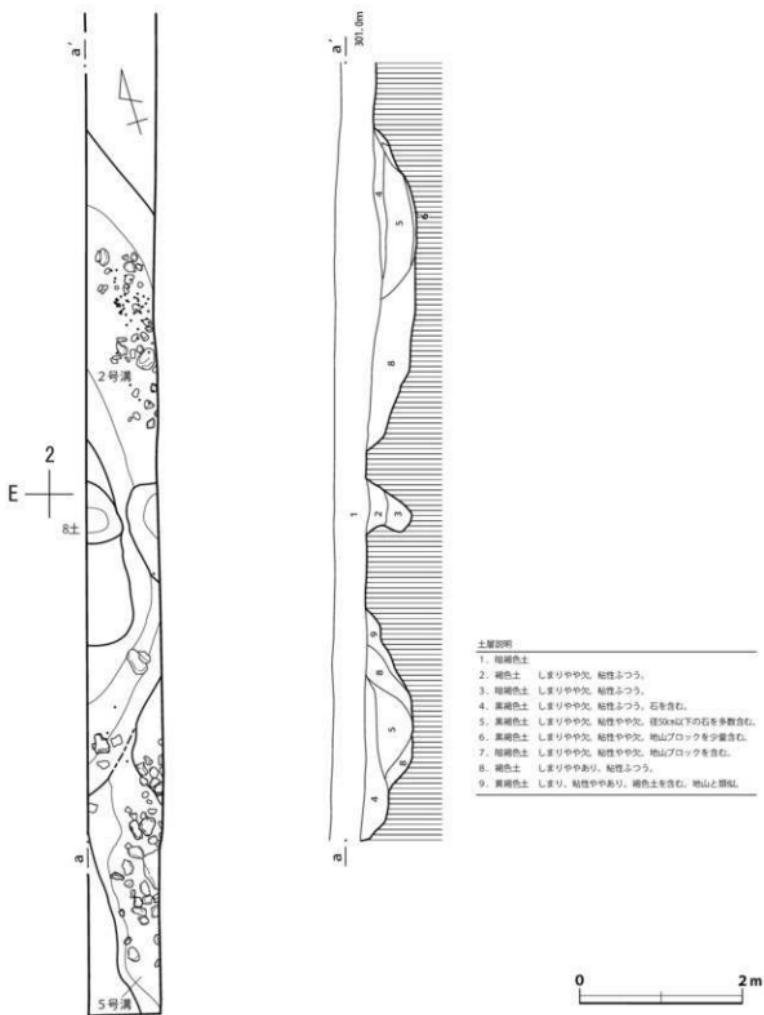
調査範囲が狭小なため全体像がつかめず、掘立柱建物がある場合は別の遺構か役割を特定できなかった。形状や規模等については土坑計測表を参照していただきたい。

総括

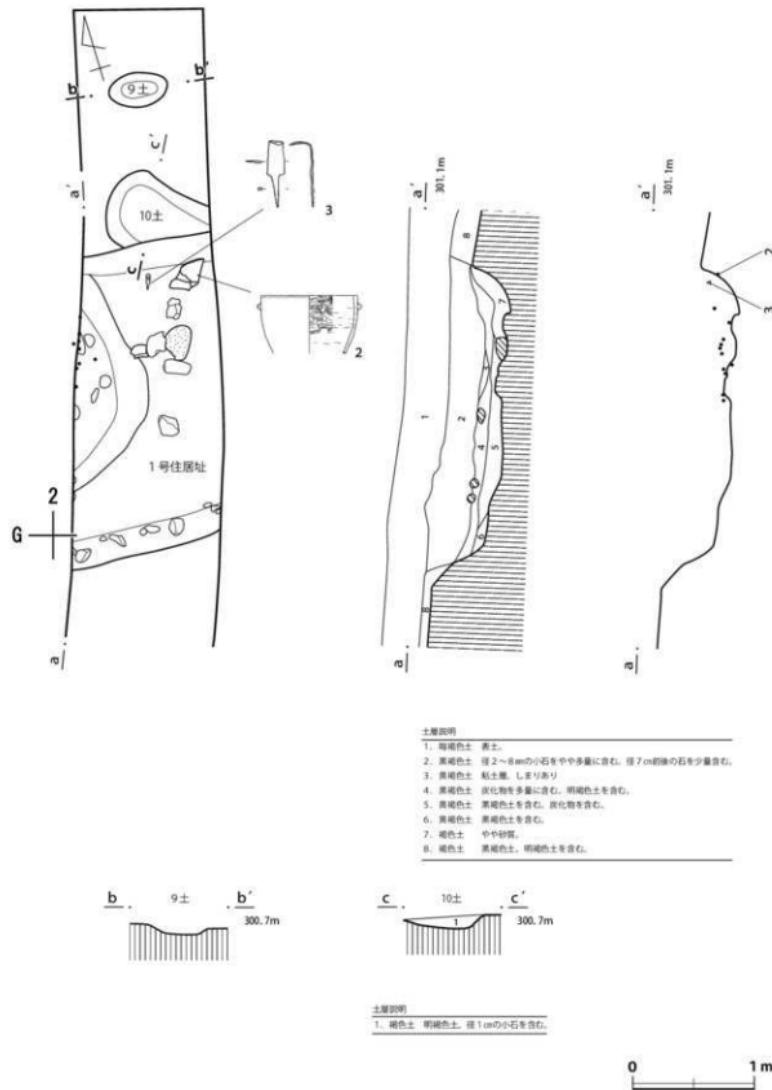
今回の調査によって、初めて漆川扇状地上で古墳時代前期の方形周溝墓が発見された。出土状況から調査区外、特に調査区南西側斜面にも他の方形周溝墓が展開していると推測される。狭小な調査ではあるが、今回の調査成果は地域の歴史を紐解く端緒となる。同時代の墓域と集落との関係や古墳時代後期の群集墳が展開する漆川右岸との歴史的変遷、平安時代の扇状地再開発など今後の検討すべき課題を示す点でも、地域の歴史にとって大きな意義のある調査結果と言えるだろう。



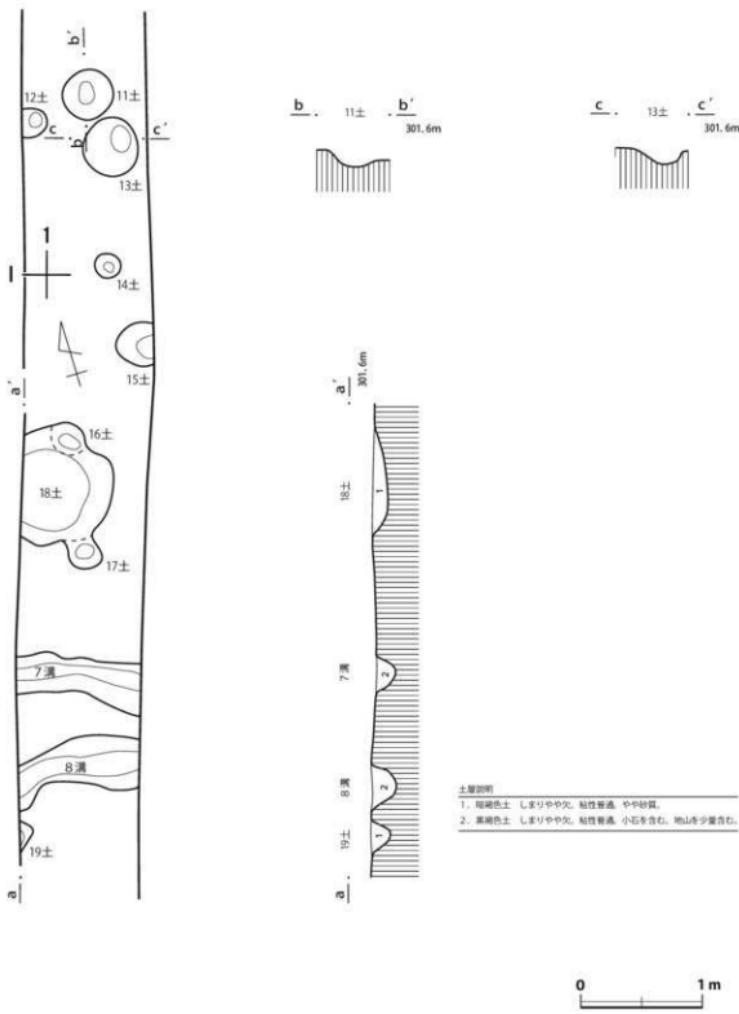
第24図 辻遺跡1号溝、1～7号土坑平・断面図 (1/40)



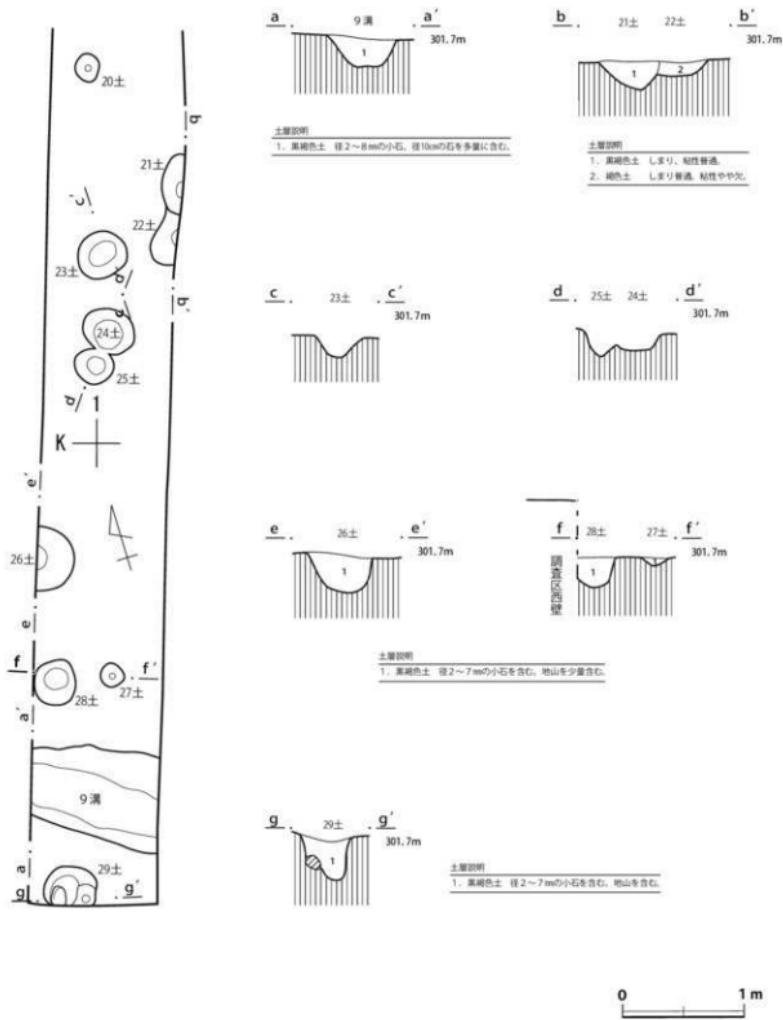
第25図 辻遺跡2号溝、5号溝平・断面図(1/60)



第26図 辻遺跡1号住居址、9・10号土坑 平・断面図 (1/40)



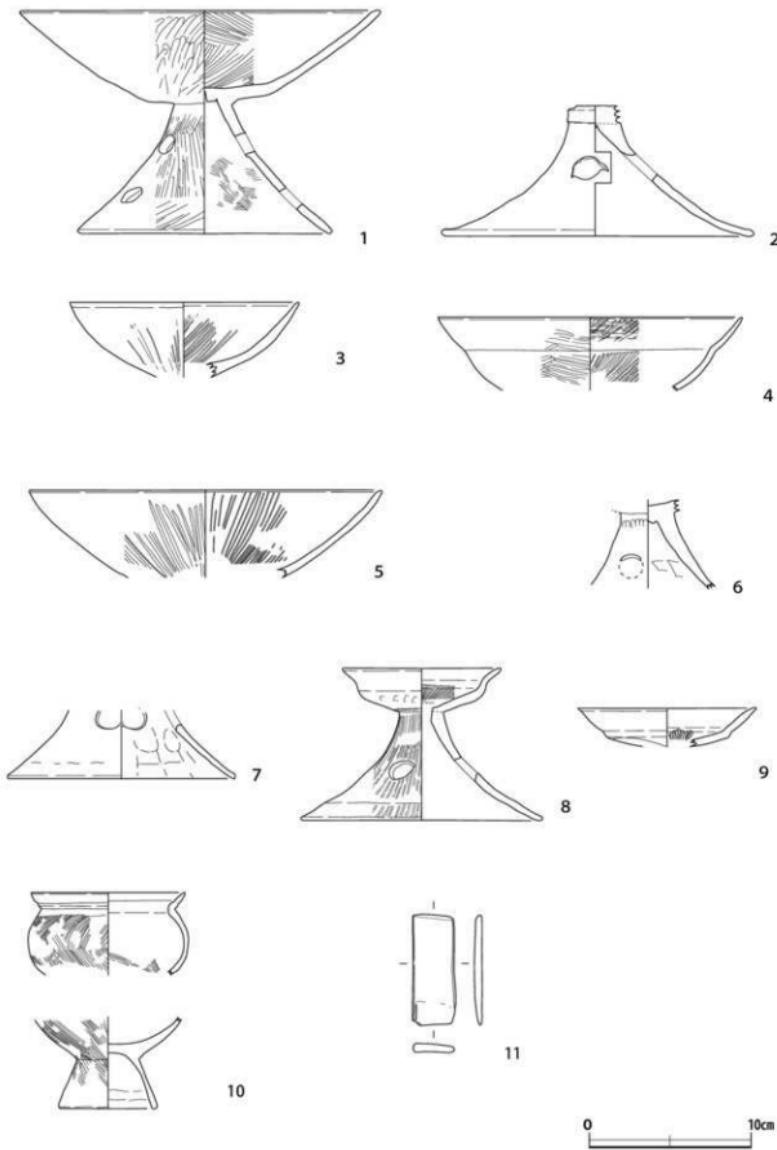
第27図 辻遺跡7・8号溝、11～19号土坑 平・断面図 (1/40)



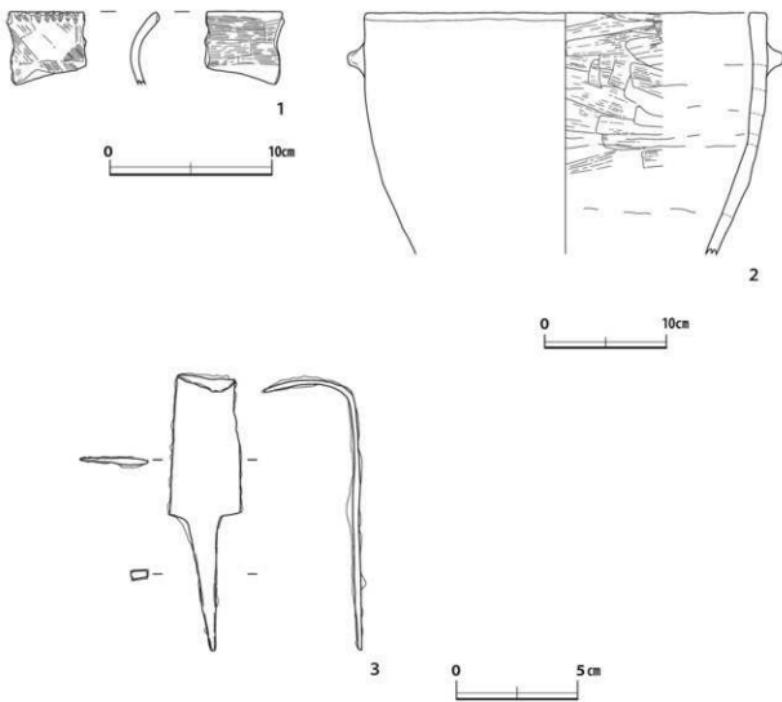
第28図 辻遺跡9号溝、20~29号土坑 平・断面図 (1/40)

第5表 汗遺跡土坑計測表

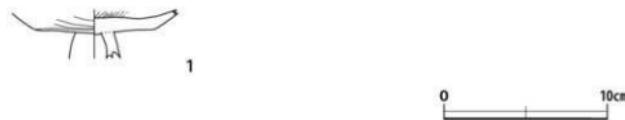
番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
1	円形	34	33	20.9	299.898	
2	円形	36	32	19.4	299.899	
3	楕円形	46	38	11.5	300.007	
4	円形	25	24	21.0	299.813	
5	—	—	—	9.3	299.919	
6	円形	38	34	32.4	300.007	
7	円形	40	35	11.5	300.318	
8	—	—	—	31.4	300.180	2号溝と複合
9	楕円形	50	39	8.8	300.476	
10	—	—	—	7.8	300.550	
11	円形	41	41	13.0	301.175	
12	—	—	—	9.4	301.244	
13	円形	48	45	17.4	301.180	
14	不整形	20	20	6.9	301.286	
15	—	—	—	12.3	301.257	
16	楕円形	33	26	9.9	301.282	18号土坑との複合
17	円形	28	27	6.4	301.295	18号土坑との複合
18	—	—	—	17.1	301.212	16・17号土坑との複合
19	—	—	—	13.6	301.261	
20	円形	25	20	12.6	301.270	
21	—	—	—	20.9	301.171	22号土坑との複合
22	—	—	—	16.5	301.259	21号土坑との複合
23	円形	43	38	15.8	301.244	
24	円形	45	35	14.4	301.292	25号土坑との複合
25	円形	33	30	23.2	301.239	24号土坑との複合
26	—	—	—	31.6	301.251	
27	円形	21	20	8.2	301.459	
28	円形	38	35	28.9	301.270	
29	不整形	—	—	34.1	301.319	



第29図 汗遺跡2号溝出土遺物 (1/3)



第30図 辻遺跡1号住居址出土遺物 (1/3・1/4・1/2)



第31図 辻遺跡遺構外出土遺物 (1/3)

第6表 辻遺跡出土遺物観察表

2号溝出土土器観察表(第29図)

出土 地点	番号	注記名	法量(cm)			種別	器種	製作技法		胎土	色調	焼成	残存率
			口径	底径	器高			内面	外面				
2号溝	1	TJ2.2.2 ≒ ゾ.18他	22.3	15.7	13.7	土師器	高环	ミガキ ハケメ(脚部)	ミガキ	密、白色粒子、雲母	明赤色	普通	口縁・脚部一部欠損
2号溝	2	TJ2.2ミゾ.8 他	-	19.2	-	土師器	高环	ハケ	ミガキ	やや密、赤色粒子、雲母	橙色	普通	脚部ほぼ完存
2号溝	3	TJ2.2 ≒ ゾ.13他	14.2	-	-	土師器	高环	ミガキ	ミガキ	密、白色粒子、雲母	黄褐色	良	口縁一部欠損、脚部欠損
2号溝	4	TJ2.2 ≒ ゾ.20他	18.8	-	-	土師器	高环	ミガキ ハケメ	ミガキ	密、白色粒子、雲母	明赤色	普通	口縁3/5
2号溝	5	TJ2.2 ≒ ゾ.43他	21.8	-	-	土師器	高环	ミガキ	ミガキ	密、赤色粒子、雲母	明赤色	普通	口縁1/3
2号溝	6	TJ2.2ミゾ.6	-	-	-	土師器	高环	ハケメ		密、雲母	橙色	良	脚部1/3
2号溝	7	TJ2.2 ≒ ゾ.32他	-	14.0	-	土師器	高环	指頭痕		やや密、雲母	明褐色	普通	脚部2/3
2号溝	8	TJ2.2ミゾ.9 他	9.7	14.9	9.4	土師器	器台	ミガキ	ミガキ ヘラケズリ	密、赤色粒子、雲母	橙色	良	口縁・脚部欠損
2号溝	9	TJ2.2ミゾ.3 他	11.1	-	-	土師器	器台	ミガキ	ヘラケズリ	密、雲母	橙色	良	器台皿部1/2、脚部
2号溝	10	TJ2.2 ≒ ゾ.40他	9.5	6.1	-	土師器	5字状口 縁台付蓋	ハケメ	ハケメ	やや粗、白色粒子、雲母	橙色	普通	口縁部1/2、脚部

2号溝出土石器観察表(第29図)

出土 地点	番号	注記名	種別	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	残存率	備考
2号溝	11	TJ2.2ミゾ 48	石製品	砥石		6.8	2.6	0.5	17 頁岩	完存	

1号住居址出土土器観察表(第30図)

出土 地点	番号	注記名	法量(cm)			種別	器種	製作技法		胎土	色調	焼成	残存率
			口径	底径	器高			内面	外面				
1号住居址	1	TJ2.6 ≒ ゾ.No	-	-	-	土師器	甕	ハケメ	口唇部に刻目	やや粗	橙色	良	口縁破片
1号住居址	2	TJ2.6ミゾ.2 他	33.0	-	-	土師器	釜型土器	ハケメ		やや粗	橙色	不良	

1号住居址出土鉄製品観察表(第30図)

出土 地点	番号	注記名	種別	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	残存率	備考
1号住居址	3	TJ2.6ミゾ	鉄製品	鉄鏡	11.40	3.08	0.41	27	完存、先端部で折れ曲がっている	伸ばした状態では約14.6cm

遺構外出土土器観察表(第31図)

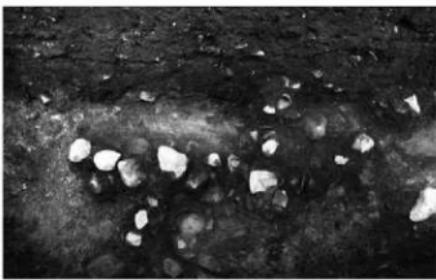
出土 地点	番号	注記名	法量(cm)			種別	器種	製作技法		胎土	色調	焼成	残存率
			口径	底径	器高			内面	外面				
土坑外3	1	TJ2.土外3	-	-	-	土師器	高环	ミガキ	ヘラケズリ	やや密	明赤褐色	普通	



調査区北（北から）



調査区南（南から）



2号溝遺物出土状況（西から）



2号溝・5号溝全景（南から）



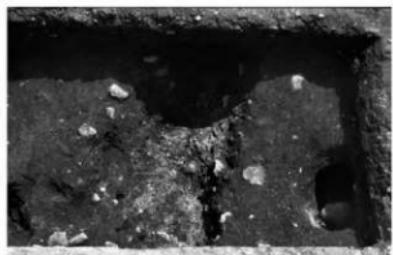
1号住居址（南から）



1号住居址（西から）



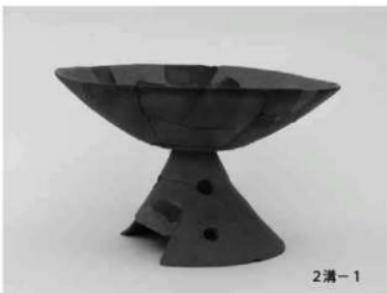
7号溝（左）・8号溝（右）（西から）



9号溝・29号土坑（西から）



作業風景



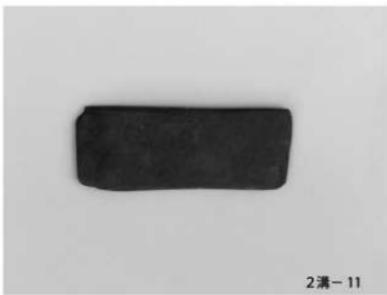
2号溝-1



2号溝-2



2号溝-8

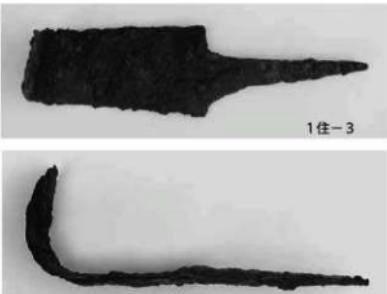


2号溝-11

2号溝出土遺物



1号住-2



1号住-3

1号住居址出土遺物

7. 前御勅使川堤防址群

調査地 六科 1086 他

調査原因 工場

調査期間 平成 17 年 8 月 18、19 日

対象／調査面積 2,961 m² / 47.6 m²

調査概要

調査区は御勅使川扇状地扇央部に位置する。調査区のすぐ南側には明治時代まで前御勅使川が流れております。調査区南側の道路は、国指定史跡将棋頭から続く前御勅使川左岸を守る旧堤防である。

合計 4 本のトレーニングを設定した。当初、道路から続く川裏側の旧堤防を予想して調査したが、既に削平されているためか堤防の痕跡は検出できなかった。しかし、第 1 および第 3 トレーニングから足跡を伴う旧水田址を発見した。発見した深さは、第 1 トレーニングでは現地表から下に約 1 m、第 3 トレーニングでは約 1.6 m である。現在の地表である水田床土から旧水田址の間には厚い砂礫層が堆積しており、旧水田址が洪水によって埋没した状況がわかる。遺物は第 1 トレーニングと第 3 トレーニングの水田址上から近世～近代の遺物を 3 点検出した。

明治 29 年の大洪水を記録した行政文書を見ると、被災状況を表した絵図には調査地点付近の堤防が破堤し被災した状況が描かれている。この洪水を契機として明治 31 年将棋頭から西側に石縁堤と呼ばれる堤防が築かれ、前御勅使川は河川としての役割が終了し、以後前御勅使川に伴う洪水は記録されていない。以上の点から、水田址上に堆積している砂礫は明治 29 年の洪水によるものと考えられ、旧水田址はその初現が不明ながらも幕末から明治時代の所産と推察される。今回検出した水田は、徳島堰の水を利用し、将棋頭とその続きの堤防で守られてきた六科地区の水田であり、将棋頭内の土地利用を考える上で非常に貴重な資料と言える。

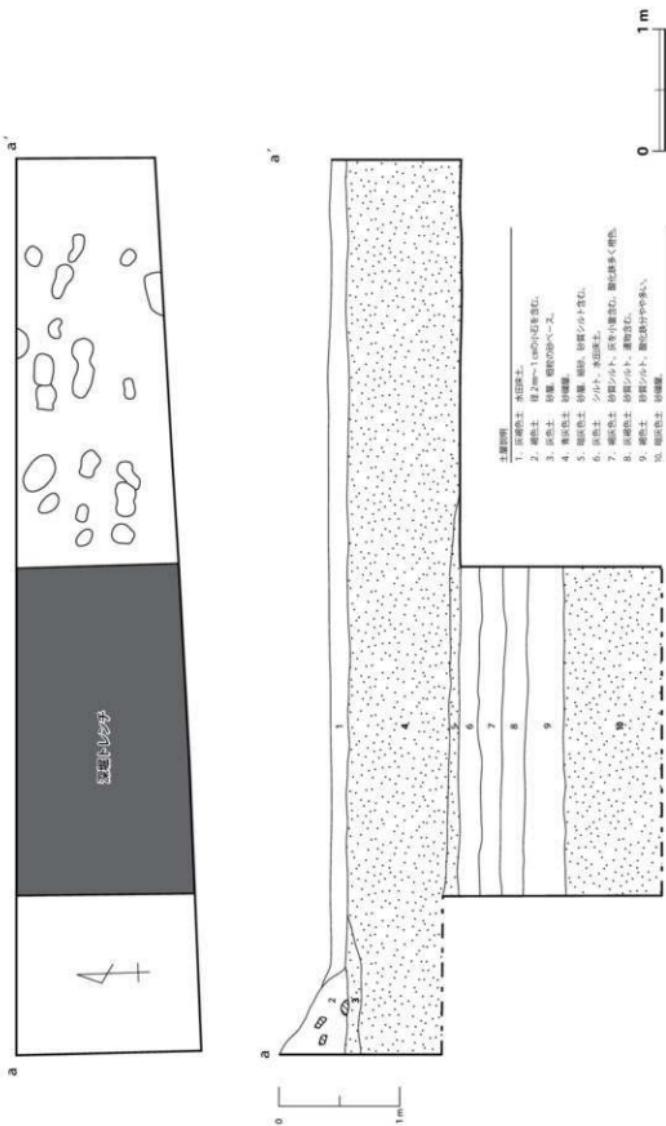
調査原因となった工場の基礎構造が未決定のため、埋蔵文化財保護については現在施主と協議中である。



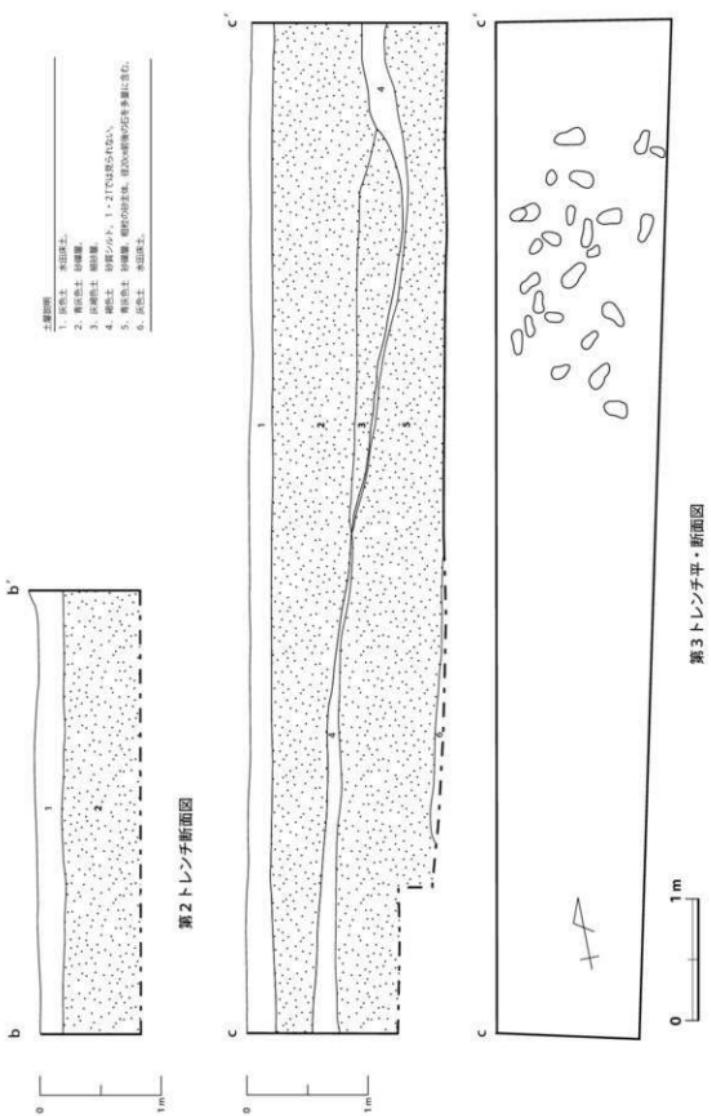
調査地位置図



第32図 前御勅使川堤防址群トレーニング配置図
(1/1,000)



第33図 前御動地川堤防址群第1トレンチ平・断面図 (1/40)



第34図 前御動使川堤防址群第2、第3レンチ平・断面図 (1/40)



第1トレーニング全景（東から）



第3トレーニング足跡出土状況（北から）



第3トレーニング全景（北から）



前御勅使川堤防址群出土遺物 第1トレーニング（左）

第3トレーニング（中央・右）

8. 櫻原・南原遺跡

調査地 櫻原 370-2、371、372-2

調査原因 宅地造成(分譲住宅)

調査期間 平成17年9月1日～22日

対象／調査面積 1,307.21m² / 18.63m²

調査概要

調査区は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査区南約130mの地点には東西方向に沢が流れ、御勅使川扇状地を浸食した小谷が形成されている。

調査区西側850mの地点には平安時代の大集落百々遺跡、調査区北側350mの地点には10世紀代の平安時代の竪穴式住居2軒および中世の区画溝が発見されている櫻原・天神遺跡が立地している。また、調査区南西側約200mには、行基開創の伝承をもち、平安時代前期から中期の作とされる木造十一面観音立像を本尊とする古利八田山長谷寺が立地する。

下水道工事に伴い立会調査を実施し、土坑、溝状遺構を検出、緊急調査を実施した。

発見された遺構と遺物

1号溝

南北に細長い調査区とほぼ同方向に延びている。幅約55～75cm、深さ約40cm、底面標高は北端で320.518m、南端で320.566mを数え、北から南へ傾斜している。溝の断面は逆台形を呈し、溝底面には直径約10～25cmの小土坑があり、並んで掘り込まれていた。覆土から土師器の小片が出土している点および暗褐色の覆土の色調から、遺構が平安時代～中世である可能性があるが、正確な時期は不明である。

2号溝

調査区北端で検出した。南から北へ延びている。幅約50cm、深さ約15cm、底面標高約320.833cmである。時期、役割とともに不明である。

竪穴状遺構

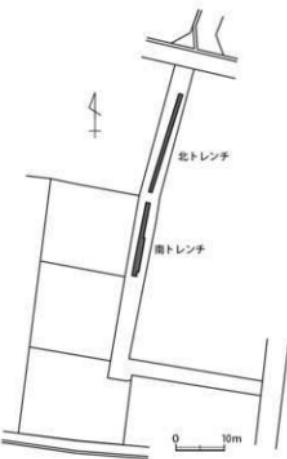
調査区壁の断面から推定した遺構であるため、正確な形状は不明である。本報告では仮に竪穴状遺構としたが、溝状遺構あるいは土坑である可能性もある。

土坑

調査区北側に集中して10基の土坑を検出した。時期、役割とともに不明である。形状等については土坑一覧表を参照していただきたい。

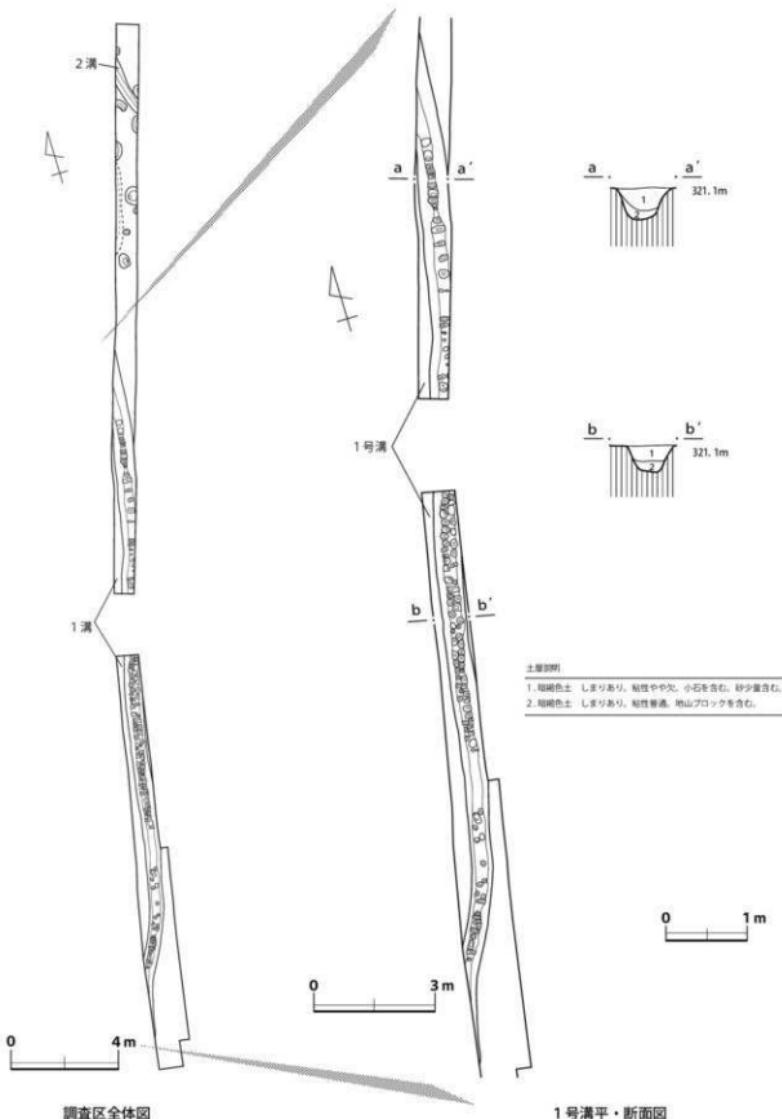
総括

調査区は櫻原集落内で初めて検出された遺構である。狭小な調査範囲なため遺構の性格まで論じるこ

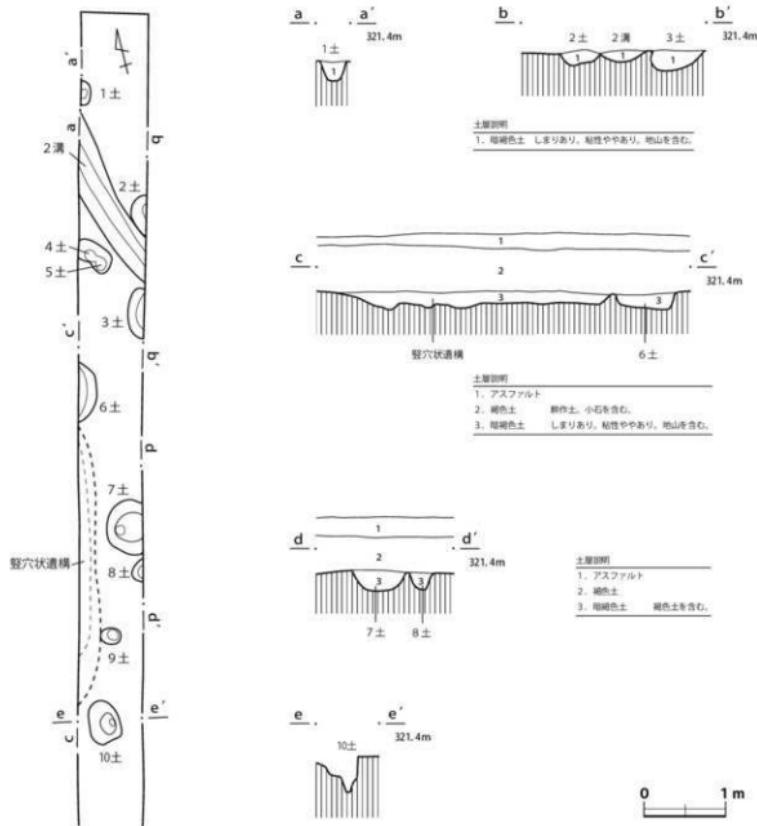


第35図 櫻原・南原遺跡トレンチ配置図

(1/1,000)



第36図 横原・南原遺跡調査区全体図(1/180)、1号溝平(1/120)・断面図(1/60)



第37図 横原・南原遺跡2号溝、1～10号土坑、窓穴状遺構平・断面図(1/60)

とはできないが、周辺の地理・歴史環境から遺跡の位置づけを行いたい。

榎原集落の菩提寺である長谷寺南側には沢が流れ、またその境内には御勅使川の伏流水が湧出する池があり、古来より原七郷の雨乞いの祈祷場となっていた。また、調査区東400mには釜無川の扇状地浸食によって形成された崖上に清水池と呼ばれる御勅使川伏流水の湧出地点がある。八田村で実施した分布調査では、この周辺で古代の遺物が広範囲に採取されている。以上の点から、扇状地末端部の湧池や沢の利用を目的として、調査区周辺に古代より寺院や集落が占地したと考えられ、本遺跡はその集落の一端を示す証拠と言える。

第7表 樅原・南原遺跡土坑計測表

番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
1	—	—	—	23.4	320.695	
2	—	—	—	18.0	320.938	
3	—	—	—	19.7	320.748	
4	不整形	—	28	12.3	320.838	
5	不整形	—	27	14.3	320.818	
6	—	—	—	6.6	322.464	
7	—	69	—	26.0	321.024	
8	—	—	—	20.0	321.026	
9	—	—	—	6.5	322.466	
10	不整形	55	3.9	43.9	322.428	



北トレーンチ全景（北から）



南トレーンチ全景（南から）



1号溝（北トレーンチ）（南から）



1号溝（南トレーンチ）（北から）



1号溝近景（南から）

9. 山寺 281-1、282-1

調査地 山寺 281-1、282-1

調査原因 宅地造成(分譲住宅)

調査期間 平成 17 年 10 月 19 日

対象／調査面積 2,321 m² / 74.57 m²

調査概要

調査地点は柳形山を水源とする漆川によって造り出された扇状地上に立地し北東へ向かって傾斜する。約 150 m 北西には古墳時代初頭の遺構が検出された辻遺跡があり、また、約 150 m 南には古代に建立され、甲斐源氏のゆかりとされる宝珠寺がある。

本試掘調査は宅地造成計画に伴うものであり、道路設置予定範囲内に試掘坑（以下トレンチ）5 箇所を設定した。

発見された遺構と遺物

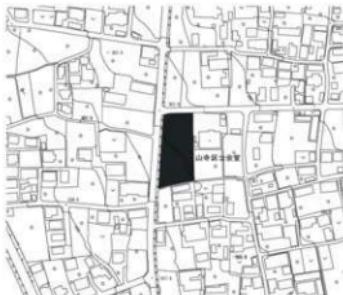
第 3 トレンチにおいて竪穴状遺構ならびに溝状遺構が検出された。

本計画では盛土の措置がとられ、配管設置工事において遺構の現状保存は不可能となる。また、予定される道路は道路構造令に準拠したものではないため、県の規則により恒久的工物とはみとめられない。配管工事は県の基準によるところの狭小な範囲にあたるため、立会調査を実施した。

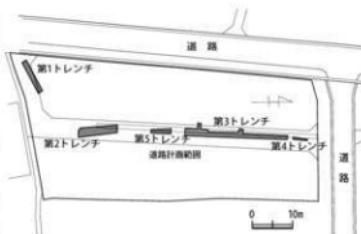
その結果、竪穴状遺構は直径 2.5 m、深さ 1.2 m を測る土坑もしくは溝状遺構の先端部とみられる。

溝状遺構は幅約 1.5 m、深さ 0.6 m を測った。

遺物は土師器片、須恵器片が出土している。須恵器片は、溝状遺構上面から出土した高台坏の底部破片であり、高台の付け方からみて甲斐型編年のⅦ期、9世紀前半の所産とみられる。



調査位置図



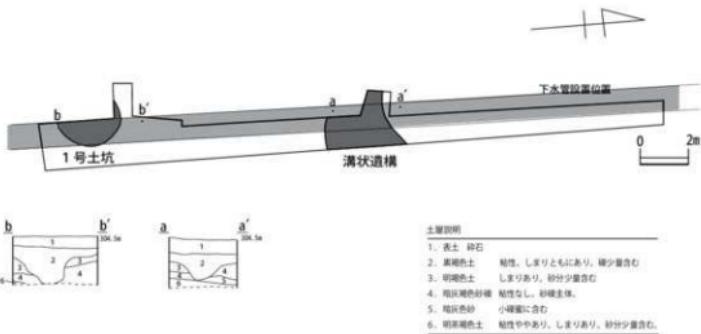
第 38 図 山寺 281-1、282-1 トレンチ配置図
(1/1,200)



第 1 トレンチ全景



調査区全景



第39図 山寺 281-1、282-1 第3トレンチ平・断面図 (1/200)



1号土坑検出状況（北から）



第3トレンチ全景（南から）



溝状遺構検出状況（北から）

10. 百々・上八田遺跡

調査地 上八田 1557

調査原因 個人住宅

調査期間 平成 17 年 12 月 8 日～15 日

対象／調査面積 101.44 m² / 4.5 m²

調査概要

調査は、個人専用住宅の建設に伴うものである。周知のとおり、百々・上八田遺跡については、比較的浅い深度に濃密な遺跡の分布が見られることから建設に先立って掘削深度の深い浄化槽埋設部分に調査区を設定し試掘確認調査を実施した。その結果下記のとおり遺構・遺物の検出をみたため、目的を記録保存に切り替え本調査を実施するに至った。

調査を開始し、G L - 0.3 m ほど表土を除去した段階で径 35 ～ 40 cm 程のピット 2 基のプランを検出した。早速、遺構覆土を除去し遺構平面図、写真撮影等を実施した。時期を決定しうる遺物が検出できず、判然としないが、周辺の調査事例や覆土の土質等に鑑み、平安時代前半以降の遺構と推察される。

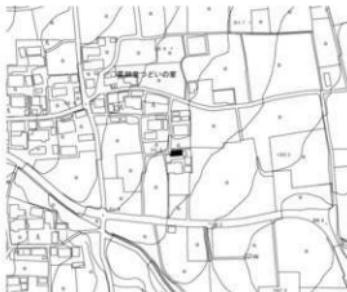
周辺の調査事例からなお下層に遺構面がある可能性が高いことから更に掘削を進めると、G L - 1.0 m 程で人頭大の礫が数個縄文時代後期の土器片を伴って検出された。このような状況に鑑み、重機による土層の除去を断念し人力により精査した結果、縄文時代後期の配石遺構を検出した。同時に調査区南邊において縄文時代の遺構の下にもぐりこむような土層の堆積を検出した。当初所謂中世の地下式坑の類かと思われたが、この遺構覆土から拳大のコンクリート塊が検出されたため防空壕であることが判明した。

配石遺構の調査終了後、調査区をさらに下層に掘り下げたところ、焼土粒、炭化物、骨片、土器片を夥しく含んだ土層が検出され、ここから獸骨等に混じって鰐の椎骨が検出された。この土層を除去するとプレーンな鈍い黄褐色土をはさんで、更に石組炉と共に伴う新たな配石、竪穴住居址の床面と思しき硬化面を検出するに至った。竪穴住居址の床面は G L - 1.8 m 程。この間、調査区の一部が陥没。防空壕の空間が縄文時代の遺構面の下に広がっていた。

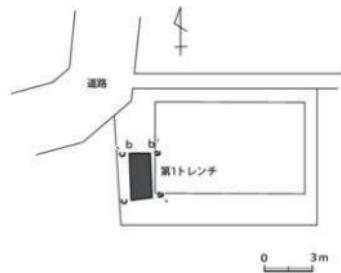
竪穴住居址の調査終了後、このまま翌日より住宅建設工事に着手し浄化槽を設置するため調査区の埋戻しは行わずに引き渡した。

今回の調査では、縄文時代後期、および平安時代前半以降と思しき遺構、遺物を重層的に検出することができた。個人専用住宅の浄化槽設置予定範囲という極端に矮小な調査区に鑑みれば非常な成果をあげたと言える。

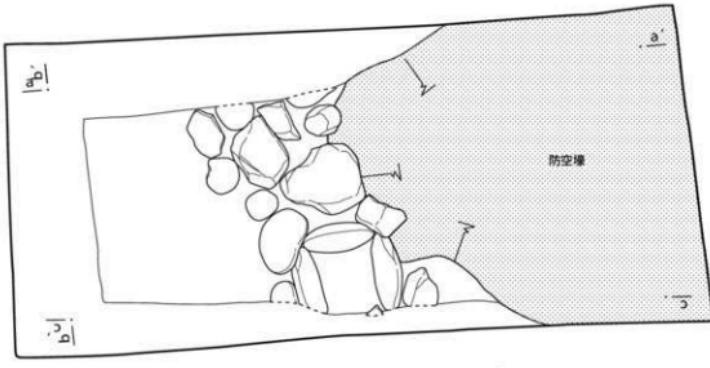
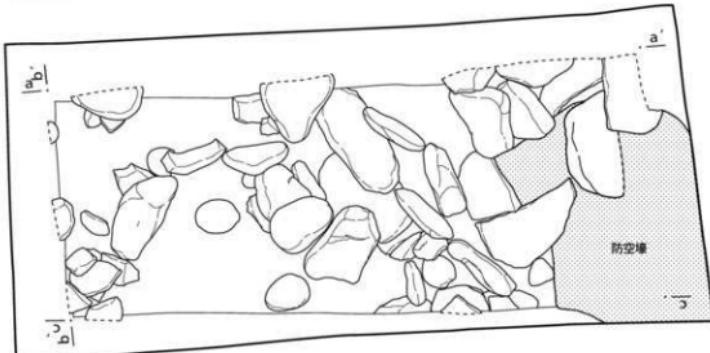
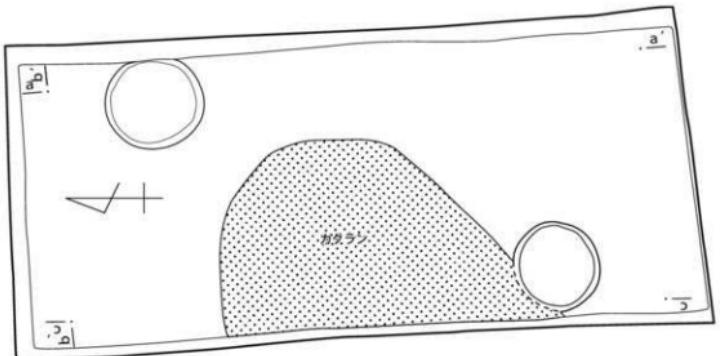
縄文時代については、竪穴住居址廃絶後、覆土一次堆積が終わり擂鉢状に窪んだ埋没過程の住居址に夥しく骨片（動物遺体）、炭化物、焼土粒、土器片を包含する土壤が廃棄され、住居址が概ね埋没した



調査地位置図

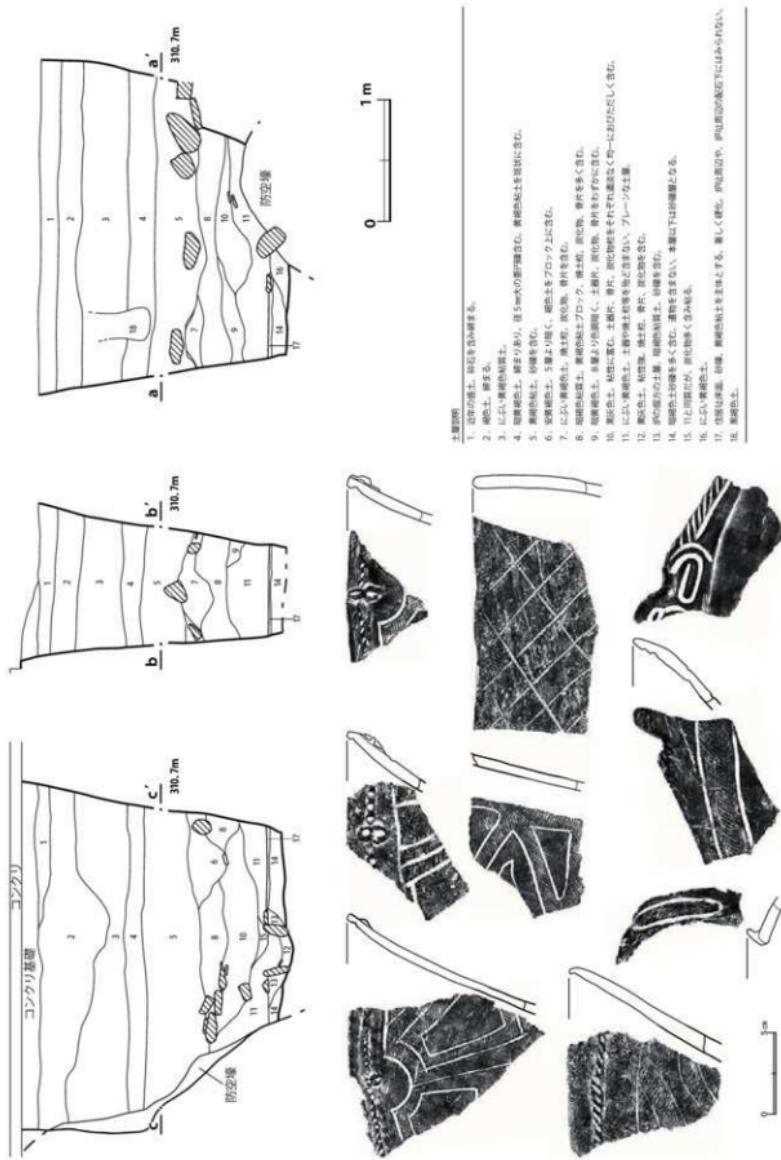


第40図 百々・上八田遺跡トレーニング配置図
(1/300)



第41図 上：平安時代以降 中：縄文時代後期配石造構 下：縄文時代後期敷石住居（1/20）

第43図 百々・上八田遺跡トレンチ断面図 (1/40)



第42図 百々・上八田遺跡出土土器 (1/3)

後にその上面に配石が配された状態であることが看取された。ここまで時間的経過のなかで、検出される土器型式に明確な差異は認められず、すべて堀之内2式の範疇で捉えることができる。

なお、今回の調査に伴って海洋生物である鯛の椎骨が検出されたことは該期の流通や交流関係を量る上で意義深い。



上層ピット検出状況



中層配石遺構検出状況



中層配石遺構検出状況



調査風景



魚骨 タイの椎骨



下層住居址検出状況

11. 百々・上八田遺跡

調査地 上八田 1618-3

調査原因 個人住宅

調査期間 平成 18 年 1 月 16 日～19 日

対象／調査面積 352.56 m² / 6 m²

調査概要

調査地点は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査区の東側には扇状地と釜無川氾濫原とを区画する浸食崖が南北に走り、本地点はこの崖上に立地する。

当地点は百々・上八田遺跡の最東端に位置し、徳永・御崎遺跡に隣接する。当地点周辺では平安時代の集落とともにその下層からは縄文時代の集落の存在も確認されている。

本試掘調査は個人住宅建設に伴うもので、浄化槽と浸透井の設置が計画されており、それらは掘削深度が遺構確認面まで達するとみられるので、その 2 箇所に試掘坑を設定し、遺構が検出されたため、目的を記録保存に切り替え、それぞれを第 1 調査区、第 2 調査区として、本調査を実施した。

発見された遺構と遺物

第 1 ・ 第 2 調査区にまたがるように平安時代前半の堅穴住居址 1 軒が検出された。また、その住居址を取り囲むかのように 4 基のピットが検出されたが、両者の関連性は決定づけ難い。

また、本調査地点よりも南側では平安時代の遺構確認面の下層で縄文時代後期の遺構が確認される傾向がある。本調査地点においても平安時代の調査終了後に深堀りのトレンチを掘削したが、縄文時代の遺構・遺物は検出されなかった。

1 号住居址

形状／規模 遺存状態は比較的良好で確認面から床面までの深さは約 40 ~ 50 cm である。形状は隅丸方形とみられるが、その大半が東側調査区外へ広がるため不明である。規模は南北で約 3.0 m を超えるものとみられる。

床面／柱穴 顯著な硬化面は確認されなかったが、荒掘りの後に粘土ブロックを混入させて床面を作り上げているため、ほぼ平坦である。

竈 調査区内では検出されなかった。

遺物 土師器の皿を中心に少量出土している。1, 2 ともに土師器の皿で、口縁部が玉縁化している。

1 は 1 号住居址内の出土で、2 はピットの出土である。

時期 出土量はきわめて少ないものの、床面直下の出土土師器から推定し、10 世紀前半以降の所産に比定される。

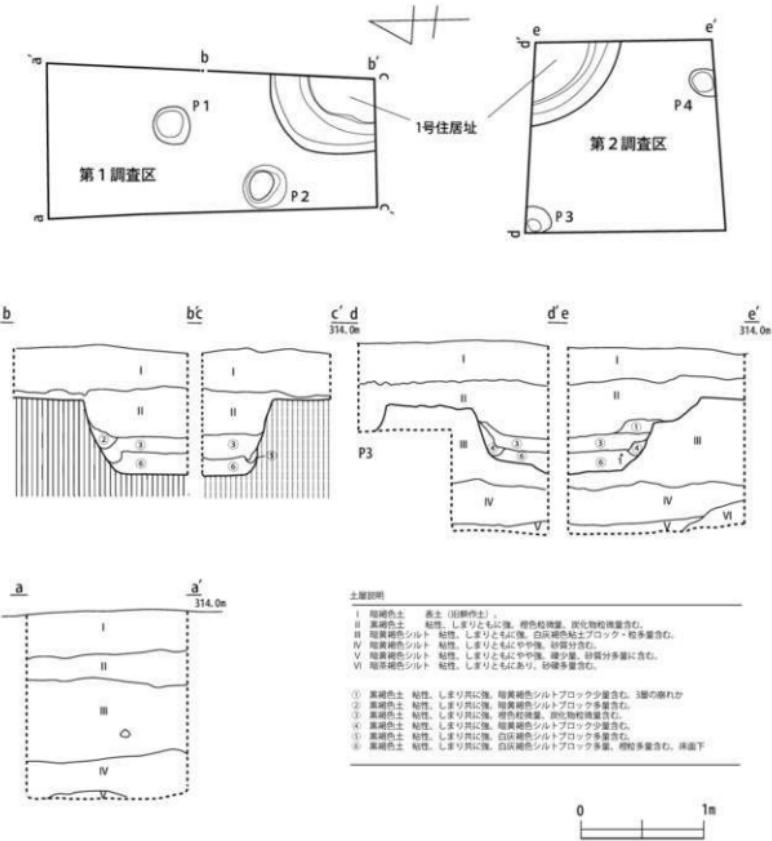


調査地位置図



第 44 図 百々・上八田遺跡トレンチ配置図

(1/800)



第45図 百々・上八田遺跡第1・2トレニチ平・断面図 (1/40)



第46図 百々・上八田遺跡出土遺物 (1/3)



調査区全景（北から）



調査区全景（南から）



第1調査区完掘状況（西から）



第2調査区深堀トレンチ（南西から）



第1調査区 1号住居址



作業風景

12. 中西第2遺跡

調査地 寺部 1191-1

調査原因 宅地造成(分譲住宅)

調査期間 平成18年3月10日～13日

対象／調査面積 887m² / 17m²

調査概要

調査地点は、御勅使川扇状地の末端にあたる。御勅使川扇状地末端は豊富な湧水に恵まれ、この湧水線に沿って数多くの遺跡が帶状に分布している。調査地については、予てから周知の埋蔵文化財保蔵地であり、地表面には弥生時代中期から中世にわたる広汎な時期の遺物が非常に濃密に散布していた。

調査に際しては、試掘坑を3本(1T～3T)設定した。トレンチの規格は、幅1.8m、長さ3.0mを基本とした。

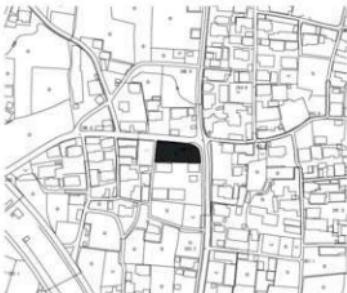
今回の調査は、遺構の有無、およびその深度の確認を目的とした試掘確認調査であり、実際の遺構の掘削調査は実施していない。また確認した範囲も狭小なトレンチの中に限られるため、遺構の全容、性格は把握できていないが、すべてのトレンチから複数の竪穴住居址と推察される遺構、および土坑、溝址等が検出された。

遺構の時期はいずれも伴出する遺物から、古墳時代

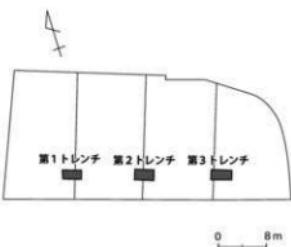
前期を中心とし、弥生時代後期から中世にわたる所産とすることができる。

上記に鑑みれば、当該開発予定地下全体に濃密な遺跡の分布があることが推察された。

ただし、今回提示されている開発計画は、当該計画地全面に盛土を施し、境界壁設置のための狭小な掘削のみを実施するものであり、規定の保護層が確保できることから、当該開発工事施工に際して市教育委員会担当者の工事立会をすることとし、本調査の実施には至らなかった。また、分譲後の個人専用住宅等の建設に際しては、掘削深度が遺構確認面における可能性があるので、各々の工事に対し文化財保護法第93条に基づく届出を求め、個別に対応することとした。

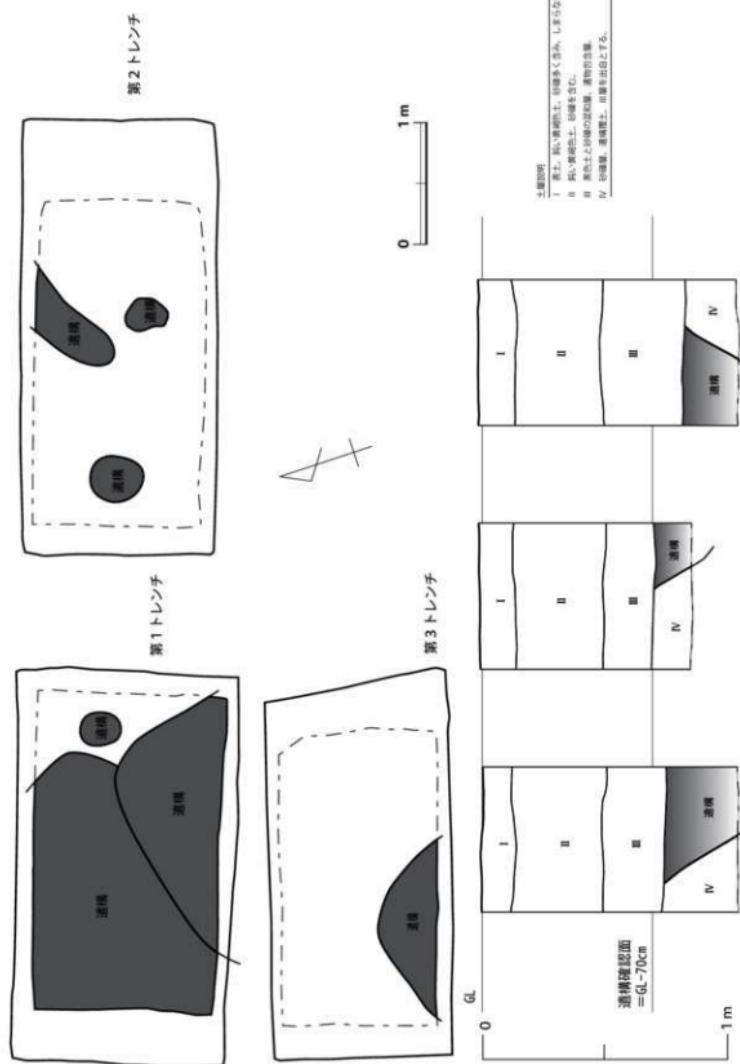


調査位置図



第47図 中西第2遺跡トレンチ配置図(1/800)

第48図 中西第2遺跡トレンチ平面図 (1/40)・基本層序 (1/20)



13. ロタコ（御勅使河原飛行場跡）

- 調査地 ①滑走路第1調査区 飯野 1493-2
②滑走路第2調査区 飯野 1428-1 他
③3号掩体壕 飯野 4182-2

調査原因 範囲確認調査

調査期間 平成 17 年 7 月 19 日～8 月 5 日

調査面積 ① 24.69 m² / ② 9.28 m² / ③ 108 m²

調査概要

第2立川航空廠を表す暗号名といわれるロタコは、戦時中の文書等に「御勅使川原飛行場」などの呼称で記載され、第2次世界大戦終戦直前に東京の立川航空廠の機能を分散する目的で甲府盆地の西部、御勅使川扇状地の扇尖部を中心に構築が計画された秘匿飛行場とされる。

秘匿飛行場というその性格からか、滑走路や飛行機を隠した掩体壕（えんたいごう）、誘導路、地下壕、兵舎、航空本部などロタコを構成する諸施設は、3km四方約800haという広大な範囲に分散して配置され、扇状地やこれに接する山地の山裾に点在していた。

その全貌を把握すべく、17年度は現在まで残されている遺構のうち、掩体壕跡1基および滑走路跡の一部について考古学的な発掘調査を実施した。

滑走路の調査

戦時中の記録や測量調査、また航空写真の観察から滑走路は幅100m、長さ1500m以上の規模であったことが明らかになっている。発掘調査に際しては、3本のトレント（試掘溝）を設けて、滑走路建設の際の盛土の規模や状況を確認することとした。

その結果、滑走路の建設工事にあたっては、滑走路両側の土を掘削し、この土を盛り上げて、構築したことが確認された。盛土層は第1調査区第1トレントと第2調査区で1層以上、第1調査区第2トレントでは2層以上にわたることがわかった。特に第2調査区では、盛土の上面硬化面を確認することができ、1層ごとの作業工程の一端を垣間見ることができた。

地域での聴取でも、滑走路の東西両側の土を掘り、「もっこ」や「ぱいすけ」と呼ばれる道具で遊び、「たこ」という木製の道具で地面をつき固めたという証言や、締め固めの機械（ローラー）を見たとの証言がえられた。

3号掩体壕の調査

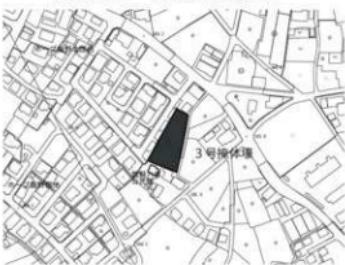
現在残る3基の掩体壕跡のうち、市教育委員会が3号掩体壕と呼称している掩体壕を対象とした。

掩体壕の基礎は、構築から60年の歳月を経てもう半ば埋没していたが、これを重機と人力を用いて発掘し、またその構築方法や地表下の構造を探るために試掘溝を設け、部分的に掩体壕の基礎構造の底面まで掘り下げて調査を行った。

測量の結果、掩体壕の幅は約21mで間口、奥行き共に16m程の規模であることがわかった。また、表面の基礎コンクリートはかなり風化が進んでいたが、地表下のコンクリートの状況は、この時期の建



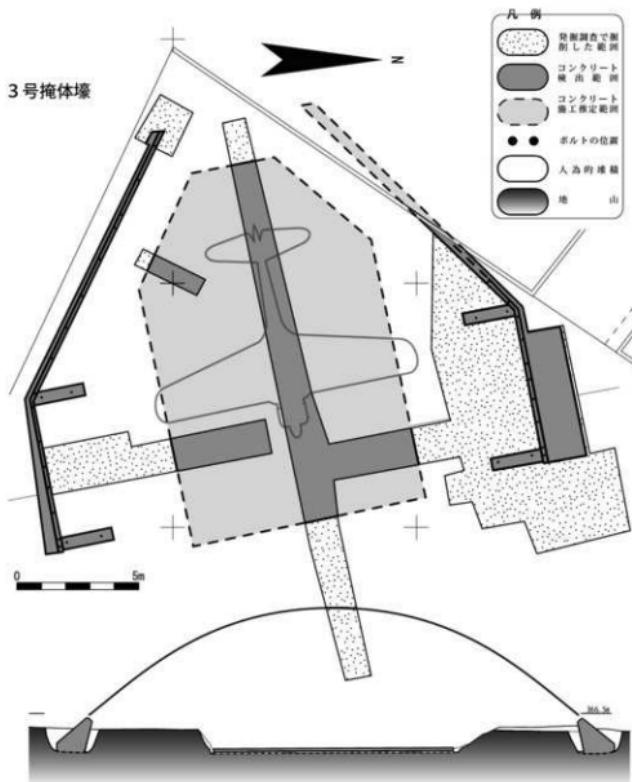
滑走路第1・第2調査区位置図



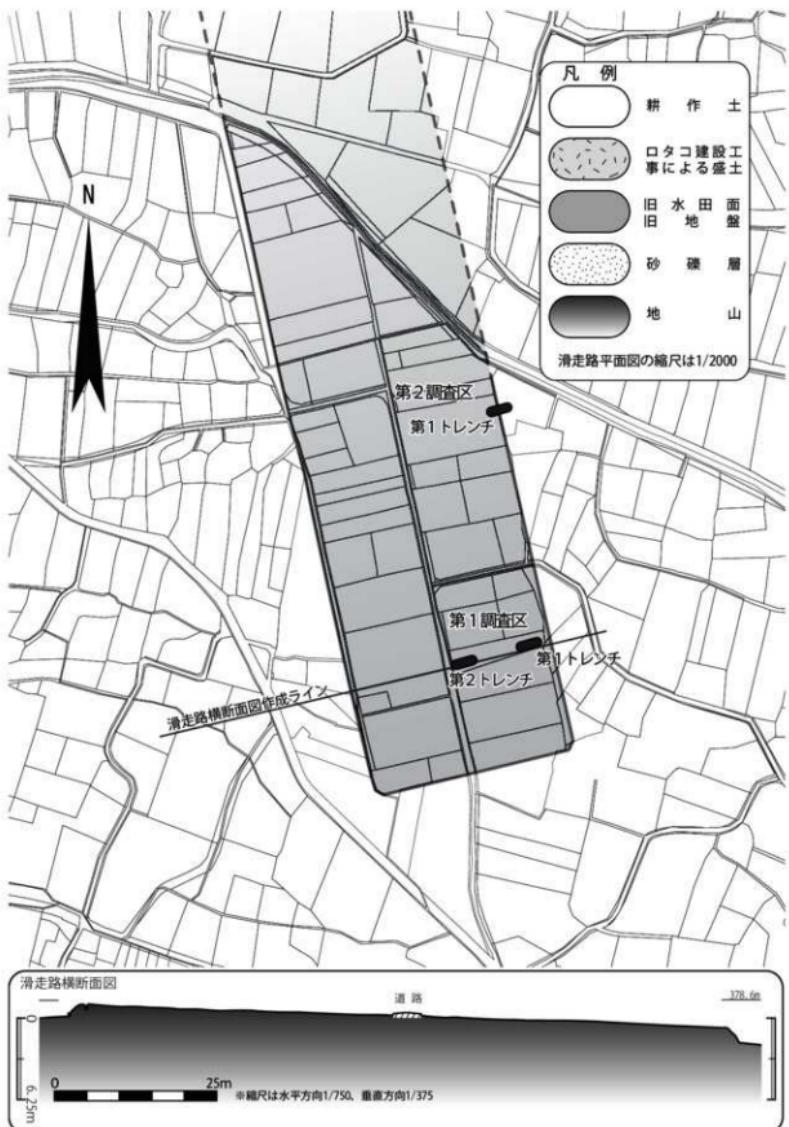
3号掩体壕調査位置図

築としては相対的に良好で、コンクリートの表面もモルタルでよく整えられており、かなり丹念に構築されたものと推察された。基礎は現地表下 1.6m に及んでいた。発掘調査前に実施した近隣での二三の聞取調査では、掩体壕内の底面の形態について縛め堅めや掘削、碎石施工等の有無に関して「何をしていなかった」、「そのままだったと思う」といった聴取結果しか得られなかつたが、実際に掩体壕内を掘削してみると、掩体壕内部は地表から 1m 程掘り窪められた半地下式の構造で、底面には、幅 9.7m、奥行き 15m 程のコンクリートの堅牢な床面が打たれていることがはじめて明らかになった。

ロタコの建設工事には、釜無川（富士川）西岸地域一円から毎日約 3000 人の住民が動員されたといわれており、まさに地域住民を総動員しての大土木工事であったことが知られる。また、最も危険の伴う地下壕の掘削にはいわゆる朝鮮人労働者が従事している。人々の記憶が薄れる中、ロタコの遺構は、確かに山梨県にも戦争があったのだという事実を今に伝える、地域にとって貴重な文化財ということができる。



第 49 図 ロタコ（御勅使河原飛行場跡）3号掩体壕平・断面図（1/200）



第 50 図 ロタコ（御勅使河原飛行場跡）滑走路トレンチ配置図／滑走路横断面図



第1調査区



第2調査区



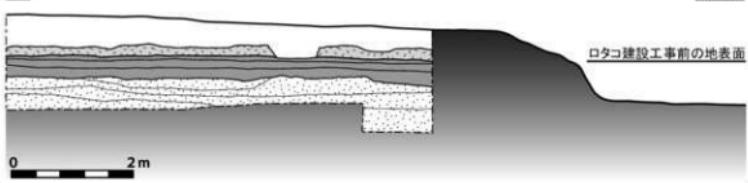
3号掩体壕床面



3号掩体壕全景

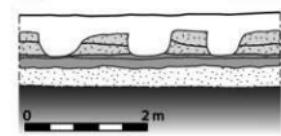
第1調査区第1トレンチ

377.0m



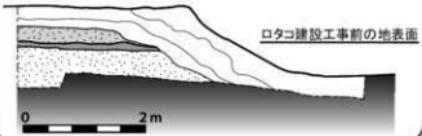
第1調査区第2トレンチ

377.5m



第2調査区

379.0m



第51図 ロタコ（御勅使河原飛行場跡）滑走路土層断面図（1/80）

報告書抄録

ふりがな	へいせい 17 ねんどまいぞうぶんかざいしきつちょうさはうこくしょ
書名	平成 17 年度埋蔵文化財試掘調査報告書
シリーズ名	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 11 集
編著者	斎藤秀樹、田中大輔、保阪太一
編著機関	南アルプス市教育委員会
所在地	〒 400-0492 山梨県南アルプス市鮎沢 1212 TEL055-282-7269
発行年月日	2006 年 3 月 31 日

遺跡名・試掘名	所在地	北緯	東経	標高 (m)	調査期間	調査面積 (m ²)	備考
上高砂 1068、1069-1	上高砂 1068、1069-1	35° 40' 01".02	138° 29' 33".75	300	2005 年 4 月 21 日	95.76	
長盛院遺跡	速永 1678	35° 39' 10".76	138° 29' 20".30	303	2005 年 4 月 26、27 日	23.35	
東出口遺跡	下宮地 686 他	35° 36' 20".25	138° 28' 11".35	277	2005 年 6 月 13 日～24 日、 7 月 27 日	182.86	
山寺 258-1 他	山寺 258-1 他	35° 36' 31".17	138° 27' 26".11	297	2005 年 6 月 28 日、 9 月 2 日～13 日	100.8	
柳原・天神遺跡第 2 地点	柳原 777-1、778-2	35° 39' 40".50	138° 29' 01".47	320	2005 年 6 月 30 日～7 月 12 日	144.25	
辻遺跡	山寺 388 他	35° 36' 32".62	138° 27' 22".52	298	2005 年 7 月 31 日～8 月 9 日	59.9	
前御動便川堤防跡群	六科 1086 他	35° 39' 47".20	138° 27' 10".37	385	2005 年 8 月 18、19 日	47.6	
柳原・南原遺跡	柳原 370-2、371、372-2	35° 39' 34".57	138° 28' 57".48	321	2005 年 9 月 1 日～22 日	18.63	
山寺 281-1、282-1	山寺 281-1、282-1	35° 36' 23".67	138° 27' 26".02	302	2005 年 10 月 19 日	74.57	
百々・上八田遺跡	上八田 1557	35° 39' 06".95	138° 29' 11".75	311	2005 年 12 月 8 日～15 日	4.5	
百々・上八田遺跡	上八田 1618-3	35° 39' 12".74	138° 29' 11".74	313	2006 年 1 月 16 日～19 日	6	
中西第 2 遺跡	寺部 1191-1	35° 36' 46".50	138° 29' 39".47	264	2006 年 3 月 10 日～13 日	17	
ロタコ（滑走路第 1 調査 区）	飯野 1493-2	35° 38' 57".67	138° 27' 15".75	377	2005 年 7 月 19 日～8 月 5 日	24.69	
ロタコ（滑走路第 2 調査 区）	飯野 1428-1 他	35° 39' 00".56	138° 27' 15".02	379	2005 年 7 月 19 日～8 月 5 日	9.28	
ロタコ（3 号掩体壕）	飯野 4182-2	35° 38' 26".09	138° 27' 03".44	378	2005 年 7 月 19 日～8 月 5 日	108	

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第 11 集

山梨県南アルプス市

平成 17 年度埋蔵文化財試掘調査報告書

発行日 2006 年 3 月 31 日

発行者 南アルプス市教育委員会

〒 400-0492

山梨県南アルプス市鮎沢 1212

TEL 055-282-7269

自刷所 鬼灯書籍株式会社

〒 381-0012

長野県長野市柳原 2133-5

TEL 026-244-0235

FAX 026-244-0210

